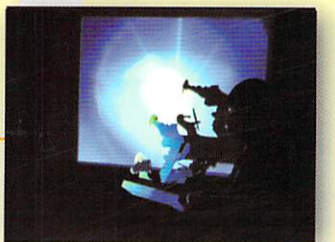




第50回関東甲信越静岡地区造形教育研究大会静岡大会
第37回静岡県教育研究会美術教育研究部夏季静岡大会
平成22年 8月9日(月) 10日(火)



つくりだす喜びを培う造形美術教育



みる

ことの再考を通して



第50回関東甲信越静岡地区造形教育研究大会静岡大会
第37回静岡県教育研究会美術教育研究部夏季静岡大会

大会テーマ

「つくりだす喜びを培う造形美術教育」

～「みる」ことの再考を通して～



- 期 日 平成22年8月9日（月）・10日（火）
- 会 場 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
静岡県立美術館
- 主 催 関東甲信越静岡地区造形教育連合
静岡県教育研究会美術教育研究部
関東甲信越静岡地区造形教育研究大会静岡大会実行委員会
- 共 催 静岡県立美術館
- 後 援 文部科学省 静岡県教育委員会 静岡市
静岡市教育委員会 静岡県校長会 静岡市校長会
静岡県教頭会 静岡市教頭会 静岡県教育事業団体

第50回関東甲信越静岡地区造形教育大会静岡大会
 第37回静岡県教育研究会美術教研究部夏季静岡大会

目 次

○ あいさつ・祝辞	1
○ 会場及び日程	4
○ 全体会次第	5
○ 基調提案	6
○ 記念講演	9
○ 分科会	
分科会テーマ・内容	10
分科会提案	
・分科会1	12
・分科会2	15
・分科会3	18
・分科会4	21
・分科会5	24
・分科会6	27
・分科会7	30
・分科会8	33
・分科会9	36
・分科会10	39
○ 資料	
大会のあゆみ	43
大会規約	44
役員一覧	45
編集後記・奥付	46



あいさつ

関東甲信越静地区
造形教育連合理事長
牧井 直文

このたび、第50回関東甲信越静地区造形教育研究大会並びに第37回静岡県教育研究会美術教育研究部夏季大会が、各都県から数多くの先生方の参加を得て、ここ静岡市にて開催されますことを、大変に喜ばしく感じております。

さて、学校は今、新しい学習指導要領への移行措置2年目を迎え、目前に迫った全面実施に向けて、改訂趣旨の徹底を図るとともに、その具現を目指し準備を進めている時期にあります。こうしたときに、児童・生徒の指導に直接携る先生方が一同に会し、研究交流を深め、課題を共有し合うことは、今後の教育活動の充実・改善につながるものと期待しております。

今回改訂された学習指導要領の基本的なねらいは、「生きる力」をはぐくむという理念の実現に向け、指導場面での具体的な手立てを確立していくことであります。本大会のテーマ「つくりだす喜びを培う造形美術教育」には、こうしたねらいに対応する授業づくりへの熱い思いが込められています。それは、感性を働かせ自らつくりだしていく喜びを子どもたちに伝えていくことであり、教師自身が、その手立てを実践を通してしっかりと打ち立てていくことであります。本大会がそうした取組みの契機となり、「生きる力」を支える諸能力の育成に大きく寄与し、これからの造形美術教育の充実につながっていくことを願います。

最後になりましたが、大会開催にあたり、ご指導、ご支援をくださいました文部科学省、静岡県教育委員会、静岡市、静岡市教育委員会をはじめ関係教育諸団体の皆様、大会準備にご尽力をいただきました静岡県の先生方、会場を提供してくださいました諸施設の皆様に、心よりお礼を申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。



静岡大会の
開催にあたって

関東甲信越静地区
造形教育研究大会静岡大会
実行委員長 澁谷 隆史

「第50回関東甲信越静地区造形教育研究大会」並びに「第37回静岡県教育研究大会美術教育大会」が、多くのご来賓の皆様をはじめ、各都県から図工・美術教育に携わる大勢の先生方を静岡市にお迎えして開催できることは、静岡の造形教育発展のためにまたとない機会であり、心から感謝いたします。

本年度、関東甲信越静地区造形教育研究大会は50年を迎えます。これまで半世紀に及ぶ造形教育の様々な実践研究は、各都県の図工・美術教育発展にいろいろな形で生かされてきました。

そこで、50年目の節目である静岡大会では、もう一度図工・美術教育の原点に戻って、大会研究テーマを「つくりだす喜びを培う造形美術教育」と設定しました。新学習指導要領では「生きる力」の育成を求めています、「生きる力」をわかりやすい言葉に換言すれば「生きる喜び」であり、図工・美術教育で言う「生きる喜び」とは、まさに「つくりだす喜び」であります。この、自らの創作活動に喜びを見いだすことのできる子どもの育成こそが、私たち教師の役目だと思うのです。

そんな思いを込め、上記の大会研究テーマとさせていただきます。本大会で、つくりだす喜びと同時に、豊かな感性と情操を身につけるための研究協議を深めていくことができれば幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、文部科学省、静岡県教育委員会、ご指導をいただいた関プロ事務局の皆様には厚くお礼を申し上げます。また、開催地としてご理解いただいた静岡県立美術館、静岡市、並びに静岡市教育委員会、そして、大変な苦勞をしながらもご協力いただいた静岡市内小中学校図工・美術の先生方には、重ねて深く感謝申し上げます、大会の挨拶といたします。



「造形教育の評価に向けて」

国立教育政策研究所教育課程センター教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局 教育課程教科調査官
奥村 高明

平成22年3月24日、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会は、「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」をとりまとめました。この報告を受けて、文部科学省は5月11日に「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」を発出しました。これらをもとに国立教育政策研究所では今年度内に評価の参考資料を作成する予定です。

図画工作・美術の評価の観点については、報告では評価の観点は「関心・意欲・態度」「発想と構想」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の4つとし、表現を「発想と構想」「創造的な技能」から評価し、鑑賞を知識や理解と自分なりに価値を考える能力を一体的に「鑑賞の能力」として見ることなどが示されました。通知では、図画工作・美術の評価の観点及びその趣旨、各学年別の評価の観点とその趣旨などが示されています。これは、平成20年3月に告示された学習指導要領において「関心・意欲・態度」「発想と構想」「創造的な技能」「鑑賞の能力」を育てたい資質や能力として位置付け、そこから教科目標や学年目標、そして内容が構成されていることと整合するものです。

今後、各教育委員会や学校等は、評価の観点と

学習指導要領の目標や内容と評価が整合したことを踏まえながら、学習評価の円滑な実施を行うことが求められることとなります。このような時期に研究大会を実施し、また、大会テーマに「見る」ことを位置づけたことは、子どもたちの学習活動だけでなく、評価活動を具体的にすることにつながることでしょう。関東甲信越静地区造形教育研究大会静岡大会開催に心から感謝申し上げるとともに大会の成功を祈念します。



祝 辞

静岡県教育委員会教育長
安倍 徹

このたび、「第50回関東甲信越静地区造形教育大会静岡大会」並びに「第37回静岡県教育研究会美術教育研究部夏季静岡大会」が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

さて、本県では、「生きる力」を読み替えたものである、「豊かな感性、確かな知性、健やかな心身」の育成を基本方針として取り組んでおり、子どもたちが人間性を豊かにしていく上で、感性を育てる教育活動がとても大切であると考えます。

また、御参加の皆様方におかれましても、新学習指導要領の完全実施に向けて創意ある教育課程の編成や指導体制作りを進めているところと思います。皆様御承知のとおり、今回の改訂では、図画工作や美術科の内容には、子どもたちの「生きる力」を育むという理念の実現に向けて、教員一人一人が授業をみつめなおす視点が〔共通事項〕として示されていることから、「木を見るとともに、森を見る」といった深い見取りの力が求められていると考えることができます。

このような中、「つくりだす喜びを培う造形美術教育」をテーマとして、県内外の小学校、中学校の先生方が、実践を基にした研究協議を通して、授業力・指導力の向上を図る努力をされることは大変意義深く、またその成果を大いに期待しております。

結びに、本大会を開催するにあたり、御尽力賜りました関係各都県の関係各位並びに準備、運営に関わられました本県関係者の皆様方に、深く感謝と敬意を表すとともに本大会の成功と参加された先生方のますますの御活躍を心より御祈念申し上げます。あいさつといたします。



祝 辞

静岡市教育委員会教育長
高木 雅宏

「第50回関東甲信越静地区造形教育大会静岡大会」並びに「第37回静岡県教育研究会美術教育研究部夏季静岡大会」が、静岡市を会場として、各地より多くの先生方が参加される中、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

さて、完全実施が目前に迫っている新学習指導要領では、「生きる力」を育むという基本理念は変わらないものの、今後更なる教育実践の充実が求められています。

造形教育における「生きる力」は、児童生徒一人一人が、自分の思いや願いをもち、その思いや願いを自分なりに表現しようと試行錯誤しながら追求していく表現や鑑賞の活動を通して培われてくるものと考えます。そのため、子ども一人一人が、自分らしさを発揮しながら、友達と一緒に、生き生きと表現活動に取り組む姿が求められるのではないかと思います。

今回、「つくりだす喜びを培う造形美術教育」を大会テーマとして、新学習指導要領の趣旨を踏まえた上で、分科会テーマにそった実践をもとに子どもたちが夢中になって取り組むことができる授業をめざして研究協議を進めることは、新指導要領の完全実施を間近に控えたこの時期、大変意義のあることだと考えます。今回の成果が、子ども一人ひとりの「生きる力」を育むために生かされていくことを大いに期待しています。

最後に、本研究大会を開催するにあたり、ご尽力いただきました関東甲信越静地区造形教育連合をはじめとする関係各位、また計画、運営に取り組んでこられた皆様心から感謝申し上げますとともに、造形教育が、今後ますます発展・充実することをご祈念申し上げて挨拶といたします。

日程及び会場

第1日目

8月9日(月) 会場：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

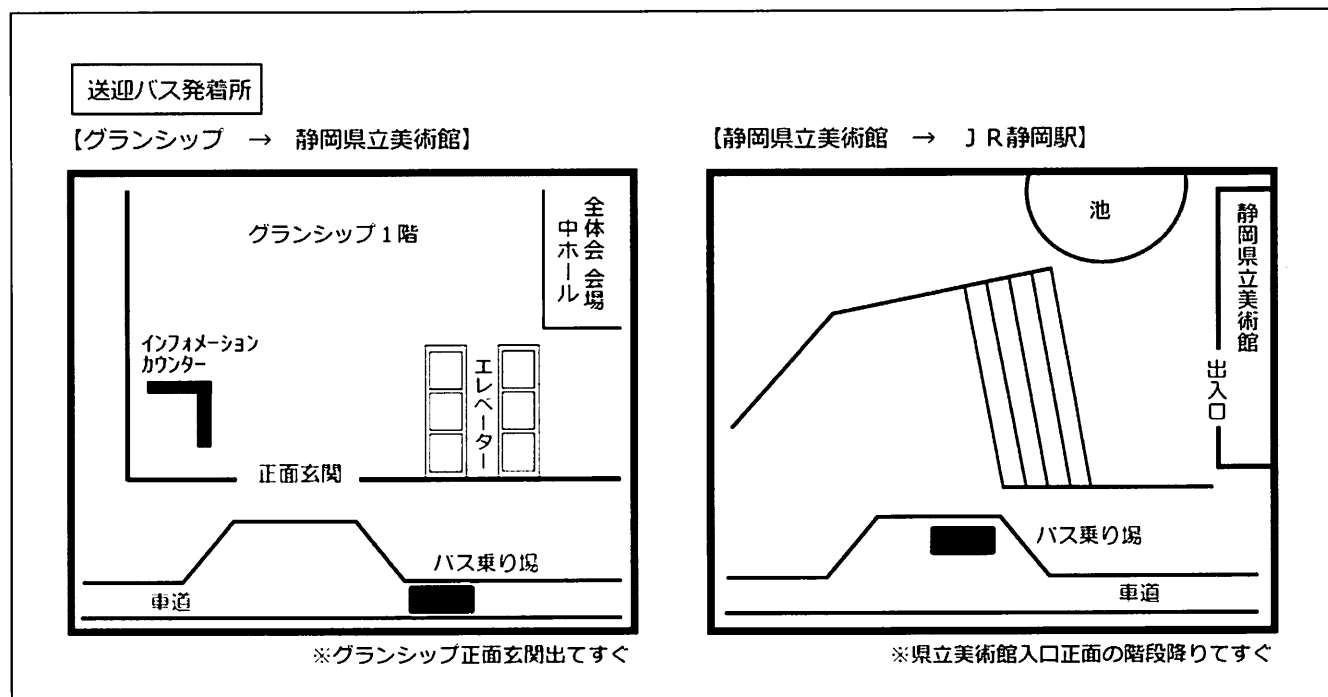
9:00	10:00	11:30	11:45	13:00	14:30	14:40	16:00	18:30
代表者 受付	都県代表者 会議 904会議室	一般 受付 中ホール	全 体 会(中ホール)			記念講演		レセプション グランド ホテル中島屋
			開会行事	基調提案	指導講評			

第2日目

8月10日(火)

会場：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」及び静岡県立美術館

9:00	9:45	12:15	13:00	13:45	14:00	15:30
代表者 受付	分 科 会 各会場	昼 食 各会場	移動	静岡県立美術館研修		
				説明	ワークショップ A「ロダン館ななふしぎ」 B「ギャラリーツアー」	自由鑑賞



*バスの乗降は係の者の指示に従ってください。

全 体 会 次 第

- 1 開会の言葉
静岡大会実行副委員長 粉奈 康夫
- 2 あいさつ
関東甲信越静岡地区造形教育連合理事長 牧井 直文
静岡大会実行委員長 澁谷 隆史
- 3 来賓祝辞
静岡県教育委員会教育長 安倍 徹
静岡市教育委員会教育長 高木 雅宏
- 4 来賓紹介・祝電披露
静岡大会事務局 村松 寿昭
- 5 基調提案
研究推進部 山竹 弘己
村松 加苗
- 6 大会宣言
静岡大会実行副委員長 小澤 豊
- 7 指導講評
文部科学省教科調査官 村上尚徳
- 8 記念講演
漫画家 ごとう和
- 9 次期開催県あいさつ
新潟大会 会長 池上秀敏
- 10 閉会の言葉
静岡大会実行副委員長 海野 茂

研究主題大会テーマ

つくりだす喜びを培う造形教育

サブテーマ

～『みる』ことの再考を通して～

はじめに

「田子の浦ゆうち出でて見れば 真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける（万葉集）」と、山部赤人が富士山の雄大さを薩堆峠から詠んだといわれています。その薩堆峠が、私たちの住む静岡市にあり、雄大な富士山に見守られ、行われる大会を、心待ちにしていた方々も多くいらっしゃると思います。

静岡市の子どもたちは、朝な夕なに富士山を眺め、いにしへの歌人が抱いたような感動を日々味わっています。この富士山を仰ぎ、その美しさに感動し、その感動を伝えようとする心は、人々に脈々と受け継がれ、これからも大切にされていくことでしょう。そして、その心を育むことは、造形美術教育に携わる私たちにとって、今後ますます重要になってくるものだと思います。

さて、急速な社会変化、科学技術の進歩などにともない、ここ数十年の間においても学力観が問い直され、昨今60年ぶりの教育基本法の改正がなされ、学習指導要領の改訂もなされました。新学習指導要領においても「生きる力」の育成という理念を引き継ぎ、さらなる改訂の要点が示されました。不易な部分と、急速な社会変化に対応していくために求められる内容が示され、先行実施もされています。私たちは、この教育界の大きな変化を意識して、本大会の準備を進めてまいりました。静岡市の取り組みが、造形美術教育の一つの提案として、皆様方と共に検討していくことができれば幸いです。



大会テーマについて

この大会では、大会テーマを『つくりだす喜びを培う造形教育』としました。

授業の中で、子どもたちが夢中になって描いたり、ものをつくったりする活動を行うことで、自らの造形能力を高め、そこで感じたつくりだす喜びを、生涯にわたって持ち続ける感性豊かな人になることを願い設定しました。

「つくりだす喜び」とは	制作、創作により物をつくりだしたり、鑑賞により新たな見方や感じ方に気づいたりする喜びと捉えています。 つくりだす喜びを重ねていく子どもたちは、自分の生活を振り返り、新しい生き方を考え、多面的に物事をとらえる力が身に付き、よりよい生活や社会を創りあげる人材になると考えています。これは造形教育の大きなねらいでもあります。言いかえれば、豊かなものの見方、考え方を身に付け、精神的に豊かに生きるための原動力といえます。
「培う」とは	本来は、「草木の根に土をかける」という意味です。植物が自ら育つ環境を整えることで、成長する力を出すことをイメージしています。 私たちは、子どもたち自らが、基礎的な造形能力を高めようとしたり、表現する力を伸ばそうとしたりして、意欲的に活動を続けることを促します。そして、自分自身で豊かに生きるために必要な力を、伸ばしていく力を育てていくことです。

サブテーマについて

サブテーマを『『みる』ことの再考を通して』としました。

子どもたちが生き生きと活動し、満足感、達成感を味わったときの笑顔は、昔と変わることはありません。そこには不易なものがあるからです。私たちは、こうした笑顔に象徴されるような「つくりだす喜び」を子ども自身が培っていくように、『感性を働かせて「みる」』という視点から、大会テーマにアプローチしていくことにしました。私たちは、「みる」ことの能動性が、「喜びを培う」姿勢に欠かせないと考えてみました。

私たちは普段ものをみるとき、意識的にせよ、無意識的にせよ、さまざまな感性を働かせていま

す。もちろんそれは図画工作や美術の授業においても同様です。例えば子どもが授業で美術作品を目にしたときに、「何となく好きだなあ。」とか「あまり好みでないなあ。」ということを口にしたとします。このとき、子どもは作品を漠然と見て得た情報と、自分の持つ感覚や価値観とを照らし合わせて、好みを判断しており、「感性を働かせてみている」と言うことができます。ただ、この場合、子ども自身は作品の何が好きなのか、あるいは何が好みでないのかの理由がを自分自身で理解できていない状態であることが多いのです。つまり、自分のどのような感覚や価値観と照らし合わせているのかが漠然としているため、見方も深まっていけない状態といえます。

私たちは、子どもたちが「何かよくわからないけどおもしろい、きれい」という直観的な感性を働かせる「みる」ことにとどまらず、「そこに何が表現されているのか」「この作品の主題は何か」というように能動的に作品と関わり、分析的な思考を働かせて「みる」ことを促したいと考えました。

そこで、造形活動における「みる」をさらに4つの段階に分けて考えてみることにしました。

「見る」「視る（注視する）」、「観る（観察する）」、「鑑みる（鑑賞する）」の4つの段階です。

「見る」は自分の持つ感覚や価値観などと作品を照らし合わせてはいますが、漠然と作品を見ているため、好みの理由、きれいだと感じた理由などが明確になっていないときの見方です。

また、「視る」は子どもたちの作品への関心が高まり「何が描かれているのか」というように作品の全体や部分を能動的に「みる」ときの見方です。さらに、同様に能動的ではありますが、「作者は何を表しているのか」というような主題の分析につながるような見方や、比較や分類などを行う見方を「観る（観察する）」、そして作品に対して自分なりの解釈ができたり、自分なりの物語をつくるような見方を「鑑みる（鑑賞する）」と捉えることとしました。

では、どうしたら「見る」が「視る」、「観る」、「鑑みる」のような能動的な見方に変容していくのでしょうか。私たちは、子どもたちの心の中に「友だちに伝えたい」とか、「共感してもらいたい」という積極的な意識（強い思い）が必要だと考えました。強い思いが生まれるためには、作品に感動することはもちろんですが、「みんなで『みる』とおもしろい」という思いをもつことが大切です。みんなで「みる」と自分の見方に自信がもてたり、違う見方に出会って見方がひろがったりするからです。

自分の思いや感情を伝えたいと思うとき、ただ「好き」とか「好みじゃない」とか「きれい」とか「かわいい」といった言葉を並べても、周囲から十分な共感を得られないものです。そこで、「なぜ好き」なのか、「どこがきれい」と感じたのか「どこがかわいい」と感じたのかということ伝えることにより、見方の変容が生まれると考えます。表現や鑑賞の中で共感を得るということを意識させることが、図工・美術科の手だての一つではないかと考えました。

そのためには、子どもがより深い見方を身に付ける経験（体験）が必要になってきます。鑑賞の授業では、見方やとらえ方の多様性を大切にしたい、友だちとの関わりの中で互いの根拠に気づきながら、鑑賞や表現を行っていくことが大切ではないかと思えます。その際、子どもたちの発言を、作品を読み解いていくという方向でコーディネートしていくことが教師に求められます。

表現活動や鑑賞活動は「見る」ことだけでなく、「視る」「観る」「鑑みる」などといった意図的な働きかけを通して、自分の価値や心と対話する活動であり、同時に他者の考え方、表現の仕方を理解し、味わったり共感したりしていくものです。また、作品の見方、読み解き方を学習しながら作者の意図や考えや時



代背景なども理解することができます。以上のような「みる」は、能動的で分析的な感性を伴い、そこからさまざまなことを感じ取ることができます。そして、自らの意図や体験を通して感じ取ったことをもとに、価値観を形成していくのです。新しい価値観はさらなる興味や疑問を生み出し、多様なものの見方と感じ方は、美しいもの、よりよいものに憧れ、それを求めようとする豊かな心の働きを生み出すのです。

さらに、さまざまな「みる」を媒体として、自分と対話するだけでなく、他者との関係をより深めることもできます。他者の思いや考え、表現のよさを、理解したり共感したり、その基盤である文化や歴史を理解したりすることになります。

こうした「自分のもつ感覚や価値観と照らし合わせてみること」や「作品の分析をしながらみる」つまり「感性を働かせてみること」がつくる喜びの基盤となるはずですが、また、こうした「みる」を深めていくときには他者の視点がとても重要であるということにも気づき、作りだす喜びをめざす指導方針を謙虚に省みつつ、地道に続けてまいりました。

現状と課題について

私たち教師は「どのような活動をさせるか」といった活動には目が向きますが、子どもがその活動の中で「いつ、何をとらえて、なぜそのようなイメージになったのか」とか「この活動を通して何を楽しみ、何を価値あるものとして捉えているか」といった視点に立って子どもの内面を探っていくことはおろそかにしてきたのかもしれませんが。もしかしたら、作品の見方という視点が私たちの教師の中でも一般化されていなかったのかもしれませんが。

例えばムンクの「叫び」の鑑賞の授業で、子どもが作品から「何を感じとったか」とか「何を発見したか」ということには目が向いても、「どんな見方をしたのか」とか、この授業が「どんなものにつながっていくのか」という視点が十分でなかったということはないでしょうか。

学習指導要領の改訂においては、「生きる力」の育成の理念をさらに進めるために、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力の育成や、学習意欲の向上などが重点に挙げられています。図工・美術科においては、「生活や環境の造形のよさや美しさを感じ取り、他者や社会に表現する学習」や「自分なりの価値観をもち批評するなど、自分なりの意味や価値を高める鑑賞活動」の重視が挙げられています。

また、急速な社会の変化の中で、豊かな生活の反面、直接体験の場が失われてきたり、自ら判断する場が減少したりしているのも事実で、子どもたちが健全で調和のとれた成長を計るためには、教科図工・美術に求められていることは大変重要なものであると考えます。

分科会テーマ・研究課題と視点

静岡市では、以上の課題に取り組むため、「みる」の活用方法や段階別に、次の示す6つのテーマを設定し、作りだす喜びを培う授業づくりに取り組みました。

- ①「みる」をきっかけとした創作意欲を高める導入
- ②「みる」ことで作品への思いを深める授業
- ③自分たちの生活を豊かにするための「みる」
- ④地域との関わりを深めるための「みる」
- ⑤よさや美しさを感じとるための「みる」
- ⑥「みる」ことと言語活動を考える（提案課題）

さらに、このテーマを研究課題別に10分科会に分けて設定しました。

分 科 会

◇分科会（分科会テーマ・協議内容・提案者・助言者等一覧）

NO	分科会テーマ	協議内容(課題と視点)
1	「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入	<p>■研究課題 ■「導入時におけるイメージや発想の持たせ方」 表現のきっかけとなるイメージや発想をどのようにもたせるか、導入時の目で見ることから、「創造性あふれる作品をつくりたいという意欲」を引き出す授業を考えます。</p> <p>□研究の視点□ 1 表現のきっかけとなるイメージや発想をもたせる方法とその支援 2 比較鑑賞とその活用方法</p>
2		<p>■研究課題 ■「視覚伝達情報以外をきっかけとした導入の工夫」 目で見る以外の感覚を生かして、表現のきっかけをつくり、イメージや発想をふくらめ、「創造性あふれる作品をつくりたいという意欲」を引き出す授業を考えます。</p> <p>□研究の視点□ 1 表現のきっかけとなるイメージや発想を生み出す方法とその支援 2 目で見る以外の感覚を生かした導入方法</p>
3		<p>■研究課題 ■「素材のもつ特性を生かした導入の工夫」 素材の特性を生かして、表現のきっかけをつくり、イメージや発想をふくらめ、「創造性あふれる作品をつくりたいという意欲」を引き出す授業を考えます。</p> <p>□研究の視点□ 1 多様な表現意図を引き出す工夫 2 素材の特性との出会わせ方 3 用具の効果的な活用方法 4 造形遊び（小学校）</p>
4	「みる」ことで作品への想いを深める授業	<p>■研究課題 ■「制作過程における表現主題との向き合わせ方」 表現主題と向き合うための、「みる」を授業の中に位置づけ、作品への想いを深めていくことを考えます。</p> <p>□研究の視点□ 1 表現主題の変容をどうみとるかとその支援 2 柔軟な表現主題の設定</p>
5	自分たちの生活を豊かにするための「みる」	<p>■研究課題 ■「目的を意識したデザイン」 作品をみる立場、使う立場にたち、目的や機能に即した表現を考えていきます。そして作品の展示場所、展示方法、使われる場所や目的を意識した授業を考えます。</p> <p>□研究の視点□ 1 用と美の調和を考えた指導方法 2 デザイン・工芸作品の指導方法</p>
6	地域との関わりを深めるための「みる」	<p>■研究課題 ■「地域との関わり」 自分たちが住んでいる町や学区に活かされる表現活動を、地域の人々・素材と「みる」ことを通して考えます。</p> <p>□研究の視点□ 1 地域の人、素材とのつながりを生む表現活動・鑑賞活動 2 地域の人、素材とともにつくり出す表現活動・鑑賞活動</p>
7	よさや美しさを感じとるための「みる」	<p>■研究課題 ■「自分たちの作品を味わう対話型鑑賞」 友達や自分の作品をみて、意見交換し、作品のよさに気づくことを考えます。（小学校） 友達や自分の作品をみて、意見交換し、主題（あらわしたいこと）について問い直して考えます。（中学校）</p> <p>□研究の視点□ 1 作品の中に表れる私らしさ 2 自己が表現したいことに気づく対話型鑑賞</p>
8		<p>■研究課題 ■「親しみのある美術作品を生かす」 親しみのある美術作品の鑑賞を通して、主体的に味わったり、理解したりしようとする態度を育てることを考えます。</p> <p>□研究の視点□ 1 作家と鑑賞者を結ぶ美術館（学芸員）との連携 2 新たな表題価値に気づく鑑賞活動</p>
9		<p>■研究課題 ■「美術文化の理解」 日本や諸外国の美術文化に対する興味・関心を高め、それぞれの美術文化を大切にしようとする気持ちを育てることを考えます。</p> <p>□研究の視点□ 1 身のまわりのものから美術文化を探る 2 美術文化の相違点やよさに気づく鑑賞活動</p>
10	【提案課題】 「みる」と言語活動を考える	<p>■研究課題 ■ 学習指導要領では全教科を通して、「言語活動の充実」をうたっています。 図工・美術科教育においてこの「言語活動」をどうとらえればよいか、授業実践例をもとに考えます。</p> <p>□研究の視点□ 【小学校】 1 作品のよさや美しさを実感のあることばで語りたくなる授業 2 対話型鑑賞とその指導方法 3 作品を物語らせる方法 【中学校】 1 作品を表現することばを広げる授業 2 対話型鑑賞とその指導方法 3 作品を物語らせる方法</p>

担当都県	提案者	助言者	司会	記録	会場
東京	中島綾子 板橋区立舟渡小学校	福岡貴彦 調布市立第三小学校	玉置一仁 練馬区立光が丘秋の陽小学校	加藤幸子 新宿区立東戸山中学校	6階 交流 ホール
山梨	五味一也 山梨市立山梨北中学校	鷹野 晃 北杜市立須玉中学校	窪田真敏 甲府市立城南中学校	小田切 武 山梨大学教育人間科学部附属中学校	
静岡	遠藤育代 富士宮市立富士見小学校	杉本博輔 富士宮市立芝富小学校	諏訪部弥生 富士宮市立大宮小学校	早房美穂 富士市立富士南小学校	
新潟	石田邦伸 長岡市立日越小学校	丸山 実 南魚沼市立塩沢中学校	長谷川太郎 長岡市立上組小学校	堀田祐嗣 長岡市立上組小学校	9階 902 会議室
千葉	新井裕子 千葉市立幕張南小学校	藤巻直子 千葉市立真砂第三小学校	山高久江 千葉市立幕張南小学校	鎌形真喜子 千葉市立蘇我小学校	
静岡	大塚彰夫 吉田町立吉田中学校	杉村 聡 島田市立北中学校	萩田 浩 牧之原市立椋原中学校	常盤みどり 静岡県立藤枝特別支援学校	
神奈川	小川 浩 厚木市立睦合東中学校	成生義幸 川崎市立南加瀬中学校	森元勇気 厚木市立森の里中学校	石田久美子 藤沢市立滝の沢中学校	9階 908 会議室
長野	梅田久仁 千曲市立戸倉小学校	青木正治 塩尻市立片丘小学校	酒井重明 岡谷市立長池小学校	名取はるな 長野市立湯谷小学校	
静岡	澤 直木 静岡市立番町小学校	松永広雄 静岡市立葵小学校	小澤佐和子 静岡市立城北小学校	小泉慈明 静岡市立葵小学校	
山梨	古屋ゆか 甲州市立東登小学校	成澤宗克 甲州市立松里小学校	広瀬きよ美 山梨市立加納岩小学校	三枝清美 山梨市立加納岩小学校	9階 903 会議室
群馬	伊藤弘美 渋川市立渋川北中学校	吉崎 匠 玉村町立玉村小学校	田中 彰 前橋市立桂壺中学校	中澤照幸 高崎市立並根中学校	
静岡	山口亜希子 浜松市立三ヶ日西小学校	野中保久 浜松市立赤佐小学校	袴田直孝 浜松市立新原小学校	鈴木史恵 浜松市立神久呂小学校	
栃木	室井礼子 宇都宮市立雀宮中央小学校	若林直行 栃木県総合教育センター	高久佳代子 宇都宮市立豊郷中央小学校	細内俊久 宇都宮大学教育学部附属小学校	10階 1001-1 会議室
埼玉	服部方暢 新座市立第五中学校	岩田直代 川口市教育委員会	宮田謙二 朝霞市立朝霞第三中学校	小泉恵美子 志木市立志木第二中学校	
静岡	宮城鳩理重 静岡市立清水船越小学校	赤堀和三 静岡市立中塚科小学校	角替珠実 静岡市立清水興津小学校	村田奈緒子 静岡市立清水三保第一小学校	
東京	木原美恵 多摩市立多摩永山中学校	中村一哉 府中市立府中第五中学校	佐藤真理子 大田区立南六郷中学校	上野目浩一 大田区立六郷中学校	10階 1001-2 会議室
茨城	鴨志田聡子 常陸太田市立菅田小学校	増田容子 北茨城市立関本中学校	近藤雄二郎 北茨城市立中郷中学校	鈴木真理子 高萩市立君田中学校	
静岡	夏目幸弘 長泉町立北中学校	勝又康次 御殿場市立原里小学校	田中史昭 長泉町立長泉中学校	渡邊千春 清水町立清水中学校	
千葉	福永真弓 千葉市立幕張西中学校	山本 豊 千葉市立真砂第一中学校	風間政章 千葉市立打瀬中学校	若海唯賀 千葉市立有吉中学校	10階 1003 会議室
埼玉	依田淳子 さいたま市立つばさ小学校	小林真理子 さいたま市立芝原小学校	才津純子 さいたま市立常盤北小学校	川邊智佳 さいたま市立与野西北小学校	
静岡	玉田千恵子 静岡市立長田西小学校	久保田文雄 静岡市東海道広重美術館	池谷典男 静岡市立籠上中学校	堤 康子 静岡市立南中学校	
新潟	榎並明日香 南魚沼市立塩沢中学校	田村晃夫 湯沢町立湯沢中学校	西野浩司 長岡市立旭岡中学校	堀 和宏 見附市立名木野小学校	11階 1101 会議室
群馬	黒澤 馨 高崎市立桜山小学校	小林玲子 高崎市立中居小学校	山崎裕美子 高崎市立京ヶ島小学校	武井弘美 高崎市立六郷小学校	
静岡	永倉真依子 静岡市立清水第八中学校	増田安由 静岡市立新通小学校	齋藤早苗 静岡市立清水第七中学校	伊澤千恵子 静岡市立清水第四中学校	
神奈川	井田義之 横浜市立新田小学校	橋本敬子 横浜市立平戸小学校	竹下 颯 横浜市立境木小学校	近藤美輪 横浜市立新吉田小学校	12階 1202 会議室
栃木	渡辺富士雄 那須烏山市立烏山中学校	田中 茂 鹿沼市立粟野中学校	平野和明 那珂川町立馬頭中学校	鈴木正一 那珂川町立小川中学校	
静岡	近藤郁子 袋井市立袋井北小学校	鈴木英司 磐田市立竜洋中学校	兼子美千子 磐田市立東部小学校	大箸恵子 袋井市立袋井北小学校	
長野	長崎至宏 長野市立吉田小学校 中平紀子 千曲市立戸倉上山田中学校	五明良治 千曲市立植生中学校	沼沢龍美 塩尻市立丘中学校	大内奈美子 木曾町立上松中学校	9階 904 910 会議室
茨城	落合睦美 筑西市立下館南中学校	武藤晴美 下妻市立豊加美小学校	黒澤亮司 筑西市立下館西中学校	尖戸英子 結城市立結城東中学校	
静岡	久保田優子 静岡市立東中学校	大野哲寛 静岡市立賤機中学校	杉山恵子 静岡市立竜爪中学校	平谷匡代 静岡市立東中学校	

分科会 1 「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入

「導入時におけるイメージや 発想のもたせ方」

東京都板橋区立舟渡小学校 中 島 綾 子

■提案

「描く」と「みる」

子どもが進んで描くとき、初めから頭にイメージがありそれを表しているときと、初めは意味や形を持たず、その行為自体を楽しんでいるときがあります。いずれにしても、子どもたちが描くとき、そこには必ず「みる」という行為が同時に存在します。それは自分の行為の痕跡であったり、友だちの作品であったりします。

子どもたちはその「描く」「みる」の活動を行き来する中で、初めあったイメージを更新させてまた新たな表現へ向かっていったり、無意識の中で描かれた軌跡から、自分なりのイメージに結びつけたりしていきます。

実践授業発表

「つながる線 ひろがる世界」

～ドローイング 無意識と意識がつながるとき～

今回私たちは、子ども自身が表したいことをみつけ動き出すこと、そしてそれぞれの子どもの世界が絵の中に表れてくることを大切に、できるだけ材料や投げかけはシンプルになるよう授業を考えました。

授業は、絵を描くというより、「線にかく」という行為自体を楽しむことから始まります。手の平サイズの画用紙の端から、筆ペンで子どもたちは線をかき始めます。かいた線はまた画用紙の端にゴールします。そのように、もう一枚…もう一枚…とかき、線の端っこと端っこを合わせ、画用紙を繋げて行きます。

そうすると徐々に、様々な線、繋げてできた形や色など、行為から生まれた軌跡が目の前に表れてきます。その軌跡をみることから、子どもたちは次に使いたい色、描きたいもののイメージを膨らませます。ここに「描く」と「みる」の往還が生まれ、線を繋げる活動にとどまらないそれぞれの表現活動へとひろがっていきます。

<イメージや発想につなげる手だて>

○子どもが意欲を持続させるための活動

…小さい紙に線を描き、つなげる

○描画材…筆ペン、色筆ペン、アクリル絵の具

○発想の広がりを促す補助空間

…台紙（4つ切り画用紙）

○友だちの絵や自分の行為の痕跡を新しい意識で
みることができる環境

…壁に貼って描ける環境づくり



■成果と課題

初めは、線にかく、つなげるというルールの中での行為でしたが、続けるうちに、こちらが何も言わなくても、線に模様をつける子がいました。繋げた紙を大きな画用紙に貼ると、その繋げた紙自体の形に注目し、自分のイメージに繋げていった子がいました。そして、壁に貼って描くことで、心を開放させて体全体で描く行為を楽しんだり、友だちと関わりながら活動したりする姿も見られました。

始めは無意識的にかいていた線から、次第に、自分にとっての意味をつくりだしていくような体験は、子どもたちにとっては今までの「絵を描く」とは違った新鮮なものだったようで、子どもたちからは、「楽しかった。」「家でもできそうだからまたやってみよう。」などの感想がありました。誰でも抵抗なくできる活動から、自然と絵を描く活動に繋げて行けたように思います。

今回の授業に限らず、子どもたちの中で、「描く」「みる」という行為は、どのような授業でも行われていることであり、その行き来が活発に行われるほど、子どもにとってその時間が充実したものになると言えます。私たち教師は、いつでも自分の投げかけやその材料が、子ども自身の内面の活動に本当に繋がっていったのかを注意深くみていく必要があると感じました。

分科会 1 「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入

導入時におけるイメージや 発想のたせ方

山梨県 山梨市立山梨北中学校 五味 一也

■提案

授業を計画するとき、その導入が強いインパクトをもち、生徒の心に残るような心がけることは大切であろう。それは生徒の意欲を引き出し、創作のモチベーションを維持するからである。ここに迫る方法は様々あると思うが、私はいつも次のようなことを念頭に置いて授業を計画している。

- ①素直な表現を大事にできる生徒を育てたい。
- ②3年間を通じて、力の高まりを実感できる題材の配列を工夫したい。
- ③この教科でしか味わえない、じっくり取り組むことで得られる充足感を味わわせたい。
- ④授業のねらいが生徒にわかりやすく、頑張りの方向性を示すことができる。

生徒に「すごい!」「やってみたい!」と感じさせ、心を揺さぶるような導入を仕掛けられれば、もうその授業は半分成功したようなものである。あとは必ずと生徒自ら動き、試行錯誤しながら活動していくはずである。

そこで、生徒の興味をより強く引くために私が最も気をつけているのは、生徒に何かを見せる場面、特に、「教師が例示する場面」である。教室の雰囲気づくり、資料の準備はもちろんのこと、生徒一人ひとりの顔がよく見え、息づかいの聞こえる距離感までなるべく小さく集め、顔を寄せ合いながら話をし、手元を見せている。

通常の授業のスタイルで発問を中心に進めながらも、ポイントでわざわざこのような形にすることで、生徒の集中力は増し、「今日は何をやるのかな」という期待感をもたせる。

ここはというところでは声は小さくしたり、溜めをつくって話しかけたりする。授業は静かな盛り上がりを見せ、「さ、やってみよう」の声かけとともに生徒は意欲付き、席へ戻り、制作を始める。

教師の作例を「みる」
友達の作品を「みる」
人体のモデルを「みる」
自分のつくっている塑像を「みる」
資料となる媒体を「みる」



■成果と課題

この課題を通し、生徒は人体の構造やその人らしさ、しぐさや特徴までも捉え、どのように表現すべきか考え、頭の中でシミュレーションが繰り返されていた。

一方で、技能の問題や人体の把握の難しさから音を上げてしまう生徒も若干いた。そういった生徒に対して、授業の中でまた補足的に顔のつくりなどの学習を挟み、教師が自らつくって見せることで支援を繰り返した。

偶然の面白さを楽しむ活動とは異なり、生徒の力量が前面に出る課題だけに、この課題を通して生徒は自分の力を知ることができたはずである。これから力をつけていく生徒には少々酷な面もあるかもしれないが、19世紀の画家たちが、写真技術の発達もあり、印象派や現代美術に新たな価値を見出していったように、生徒も美術の多様な価値観を知ってもらうための、最初の壁にもなり得たように感じている。それは決してマイナス面ばかりではないだろうと考えている。

このときの生徒たちは現在、モダンテクニックによるオートマチックを経験し、美術の別の側面を楽しんでいる。

分科会 1 「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入

「導入時におけるイメージや 発想の持たせ方」

静岡県富士宮市立富士見小学校 遠藤 育代

■提案

造形したいと子どもが考えるのは、どんな時であろうか。それは、やはり素材や表現活動に魅力を感じたときであろう。そして、やりたいことがはっきりしたとき、子どもたちは夢中で活動に取り組む。また、それを持続させるためには、活動の中でいろいろなことを進んで試し、それが成功したり、認められたりすることが大切である。

造形遊びは、活動しながら発想を広げていくものではあるが、やはり導入時の投げ掛けや、素材との出会わせ方が大切になってくると考える。「どんな活動ができそうかな」とわくわくしながら、イメージや発想を広げる手立てを考えてみた。

①素材をみる（題材との出会い）

素材を観察し、触れてみることで、そのおもしろさに気付く。素材と思いきり遊ぶことで、どんなことができそうかいろいろ想像し、活動のイメージが膨らみ、意欲が高まる。そこで発見したことは活動にも生きてくる。

②課題をいっしょに考える

本時の活動がはっきり分かる課題の提示は、授業のねらいを子どもたちが理解し、意欲を持つ上で大切である。課題を一方的に与えるのではなく、一部を隠したり、子どもたちといっしょに考えたりするなどの工夫をすることで、想像力が高まり、自分たちが何をやればいいのか理解し、主体的な活動につながる。

③表現方法（技法）を試す

こんなふうにやってみたいと考えても、どうすればいいか分からなければ活動できない。そこで、どうやったらいいか、子どもたちが試してみても紹介し合ったり、教師側から提示した技法を見たりする時間を持つ。技法からイメージが膨らみ、やってみたいという思いを持つことができる。

④発見したことを言葉に表す （友達の作品をみる）

活動の中で子どもたちは様々な発見をする。それを次時の導入で生かすことで、子どもたちがお互いの活動を認め合い、また、自分の活動に取り入れることで活動が広がる。同時に前時で困ったことも出し合い、解決方法をみんなで考えてから活動を始めることで、意欲の継続ができるようになる。

また、前時までの作品を見合うことで、子どもたちは、何かを感じ、自分の作品や活動を振り返り、「もっとおもしろい表現ができないか」「わたしもあんな風にやってみたい」と、イメージや発想をさらに膨らめたり軌道修正したりすることができるはずである。

実践授業発表

発表は、造形遊びの授業実践を中心に行う。



■成果と課題

題材との出会いは本当に大切である。ただ与えるのではなく、活動につながる出会いをしたことで、子どもたちの意欲を引き出すことができた。素材で十分遊んだり、いろいろな技法を試したりしてから活動に入ることは、自分が何をやりたいかのイメージがはっきりし、スムーズに活動につながった。

また、発見カードを書いて提示したり、それを紹介したりすることは、自信につながり、やる気の継続にもなると共に、「この次どうしよう」と考えている子の手助けにもなった。

ただ、丁寧な導入は、子どもの「はやくやりたい」という気持ちをさまたげる。また、技法の紹介は、子どもの活動に影響を与えやすいので、導入時ではない方がよい場合があり、タイミングを十分考える必要がある。

分科会 2 「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入

「視覚伝達情報以外を きっかけとした導入の工夫」

新潟県 長岡市立日越小学校 石田 邦伸

■提案

以前、広い教室いっぱいにシュレッダー屑を山のように用意して、子どもたちに自由に遊ばせてから、造形活動に入ったことがあった。子どもたちは歓声を上げてシュレッダー屑での遊びを楽しんだ。潜ったり、かけ合ったり、袋に入れたり…。その後での造形遊びは、遊んだ体験が生きて、シュレッダーのお風呂をつくったり、布団をつくったりと材料を使って大きなものをつくって遊ぶ子が現れた。子どもたちは、大量に用意した材料で体全体を使って遊ぶことで、その材料の特徴を感じ取り、造形活動に生かすのだと感じた。

そこで、子どもたちが「材料で遊んでみる」ことで材料の特徴をつかみ発想することを、目で見える以外の感覚を生かした導入方法ととらえ実践を行った。

実践の概要

材料は、子どもたちがその感触を楽しめるもので、なおかつ造形活動では未経験の材料として、空気でふくらんだビニル袋を考えた。活動場所も、思い切り遊べるようにと、机などが置いてない広い多目的教室を使った。



【思い思いに遊ぶ子どもたち】

たり、顔や体に押しつけ合ったり、叩いて飛ばしたりして遊んでいた。

しばらく遊んだ後で、題材名を子どもたちに話し、構想を練った。遊んだ体験が生きて、大勢の子が「ふわふわの……」と感触を生かした発想をした。そのうちにつくりたくなり、ビニル袋同士をテープでついたり、毛糸などをついたり、顔を描き始めたりと造形活動が自然と始まった。

2・3時間目に、本格的につくる活動を行った。子どもたちの多くは、前時の経験を生かして、大きなビニル袋に細長い袋や小さい袋をついたり、輪ゴムで袋を絞ったり、絵を描いたりしていた。一人一人が自分らしい工夫しながらつくっていた。

できた作品を空中に放り投げた子がいた。作品が、ふわふわ落ちてくる様子がおもしろいようだ。何度も何度も放り投げていた。この様子を生かし、子どもは、つくったもので遊びたいのだろうと考え、鑑賞としてつくったものと一緒に遊ぶ活動を取り入れた。

1時間目に、活動場所にふくらませたビニル袋を置いておき、好きなように遊んで材料の感触を確かめることから始めた。子どもたちは、材料を見つけるなりビニル袋に乗っ

一人一人クラスの友だちの前に出てきて、つくった「友だち」の名前を言って、遊び方をやってみせた。つくった「ふわふわプニャプニャわたしの友だち」を打ち上げる子、投げる子など、それぞれの遊び方を示した。

■成果と課題

(1) 成果

○遊ぶことを十分に行うことでの材料の特徴の把握
遊びの時間をたっぷりもつことで、子どもたちは、ビニル袋の弾む感触、押し返すクッションのような感触、ふわふわの感触等の気持ちよさに気づいた。そして、子どもたちの多くは、触感からの発想や動機付けで造形活動を生き生きと行っていた。

○触感を生かした表現の工夫

1時間目に遊んで、触った感じを生かした表現を、子どもたちの作品紹介から見つけた。

・空中に投げあげ、ふわふわ落ちてくる様子を楽しむ。

・ひもをつけて、走って空中に浮かべる。

遊んで、楽しんだ経験から、素材のよさを感じ取ってそれを表現に生かしていたことが分かる。子どもたちは、ビニル袋を材料に「つくる」ことだけではなく、「つくったもので遊ぶ」ところまで楽しんでいたと考えられる。これは、1時間目に、材料でたっぷり遊んだ経験から来る発想だと考える。

○広い空間での活動によるのびのびとした発想の広がり

2階多目的教室という広い教室を使った。真ん中に見本の袋や子どもたち自身がつくった袋を置いておくなど、雰囲気づくりができた。広く、机など障害物のない教室なので、子どもたちはビニル袋をふくらませるために教室を走り回るなど、開放的な雰囲気で活動に取り組めた。広い空間で大きな活動を行うことができたので、のびのびと発想をふくらませることができた。

(2) 課題

○ふくらんだビニル袋の形が同じになりやすい。

子どもたちは、ビニル袋に空気をいっぱい入れてふくらませようとしたので、同じ形になりやすかった。空気をばんばんになるまで入れず、柔らかいところで止めると、ビニルの形を変えることができる。と考える。

○ビニル袋がしぼんでしまうと子どもたちの意欲が低くなる。

・前時から1週間が過ぎると、前時ふくらんでいたビニル袋がしぼんでしまった。しぼんでしまったビニル袋は、子どもたちの興味を引かなかった。S児は、前時、黄色いビニル袋に細長いビニル袋をつなげて楽しそうにつくっていたが、黄色いビニル袋がしぼんでしまうと「壊れた」と言うてつくろうとしなかった。そこで、教師が黄色いビニル袋を再びふくらませてあげたところ、楽しそうにまた作り始めた。このように、子どもたちの興味は、ふくらんでいるビニル袋にある。本題材は、ビニル袋がふくらんでいる中に、楽しむ造形活動である。

分科会 2 「みる」をきっかけとした創作意欲を高める導入

「視角伝達情報以外をきっかけとした導入の工夫」

千葉県 千葉市立幕張南小学校 新井 裕子

■提案

子どもは常に五感を敏感に働かせて物事を受け取めたり、表現したりしている。それは、木々の香りを色に表したり、友だちの声を線に表したり、夢を形に表現したりすることである。

そこで今回は、子どもたちが視覚以外の聴覚、触覚、嗅覚、味覚などの全身の感覚を十分に働かせ、その感覚や、感覚で受け取ったイメージから表現する導入方法を提案する。学習指導要領[共通事項(1)ア自分の感覚や活動を通して、形や色・・・などをとらえること]にもあるように、さまざまな感覚を使つての活動は、「見ること」とは違った部分から子どもの感覚を活性化させ、表現したいという意欲を高め、そこからさまざまな個性豊かな表現が生まれてくると考える。

実践① 触覚をきっかけにした授業実践

(1年 液体粘土 造形遊び「ちちんぷいぷい」)

本題材は、液体粘土の感触を味わい楽しみながら、全身を使って表現していく活動である。

題材との出会わせ方の工夫として、始めは液体粘土を「まほうのねんど」として、一人1つの洗面器の中に入れ、思う存分感触を楽しみながら液体粘土の特性を感じられるようにした。感触を味わっているうちに、手のひらですくったり、ぺたぺたとたたいたり、上に角のように伸ばしたりといった表現をするようになり、その液体粘土を黄ボールの上に移した後も全身を使っての活発な表現活動が見られた。

実践② 聴覚、音楽をきっかけにした授業実践

(5年 スチレンボード版画「こんなメロディーが聞こえたよ」)

本題材は、曲から受けるイメージを色や形に置き換えて版に表し、彫りや刷りを楽しみながら表現方法を工夫する活動である。

題材との出会わせ方の工夫として、一曲の中にも、軽快なリズムやゆっくりしたリズム、高らかな楽器の音色や重々しい音色、もの悲しい音色等いろいろな曲想をもつ曲を聞かせること

で、音のリズムやテンポを自分の感じた喜怒哀楽に置き換えて、線や色、形に表現することができた。(曲名「いたずらっこのいたちくん」)



■成果と課題

触覚をきっかけとした導入では、題材と出会ったときの感触の驚きがその後もずっと続き、「いつまでも続けていたい」と、表現活動に没頭する姿が見られた。感触を味わう、ということから手先の動かし方をいろいろと変化させ、ひっかいたり、つまんだり、5本の指を波のように動かして線を描いたりするなど、表現の工夫がたくさん出てきた。また、その瞬間の感触を友だちにも紹介したいという気持ちが高まり、友だち同士で「こんなことできるよ」と積極的な対話が生まれた。

聴覚をきっかけとした導入では、曲からリズムの変化や楽しさ、悲しさ等の多様な曲想を感じ取り、一人一人が表したいイメージを持つことができた。そのイメージを色や線、版の形を工夫して抽象的な表現で表すことで、何回も試してはまた考え、また刷っては考え、と思考を十分働かせて活動することがわかった。また、同じ曲を聴いてもそのイメージの表現の仕方が友だち同士で違うことに気づき、自分はしなかった表現の仕方を知ったり、お互いの表現のよさを感じ取ったりすることができた。

分科会 2 「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入

「視覚伝達情報以外を きっかけとした導入の工夫」

静岡県 吉田町立吉田中学校 大塚 彰 夫

■提案

美術科の授業において、生徒の表現意欲を喚起する方法はいろいろ考えられるが、発想を多角的に構築する力をつけることは、そのなかでも最も大切な要素であるのではないだろうか。

しかし、同時に作品の制作時間の保証も大切な要素の授業にあっては、省きがちな項目となってしまふ。

吉田中学校においては、生徒の既成概念を打ち破り、発想を広げ、表現に生かすため、年間を通し、様々な発想トレーニングを行っている。

トレーニングでは、成長するに従って凝り固まってくる生徒の既成概念をいかに壊し、自由な発想を引き出させるか、羞恥心はいかに取り除くか目標になる。

また、同じ描画題材を想像して描いたり、観察して描いたり、様々な角度から描くことにも取り組んでいる。

我々の生活は多くを視覚に頼っている。それは、脳からの指令で動いている人間にとっては当然のことであろう。

作品の制作においてもほとんどの場合は視覚を通して情報を収集し、その情報を構成し表現することになる。

そんな生徒に、目で見える以外の感覚を生かして、表現のきっかけをつくり、イメージや発想をふくらめ「創造性あふれる作品をつくりたいという意欲」を引き出す授業を行うことは生徒の感性を刺激できるよい機会であろう。

また、美術の表現において五感を十分働かせることは創造性豊かな作品づくりに欠かせないことでもある。

幼児に限らず中学生年代でも粘土などは触感を刺激する題材として歓迎されるように、視覚だけでなく、触覚そして、聴覚も表現につながる大事な感覚であろう。

実践発表①

◇合唱曲のイメージ画（絵画）

吉田中学校では、毎年、10月の後半に文化発表会の一環として、クラス対抗の合唱コンクールが行われる。

そのコンクールで歌う合唱曲を題材にイメージ画の制作に取り組んでいる。

制作の導入として、合唱曲を何度も聴き、曲から得たイメージを言葉にしたり、絵にしたりしながらアイデアを膨らませる。

そこからの表現は各自にゆだねるが、学級代表としての合唱曲のイメージ画も制作する。



（鉛筆デッサンの作品を鑑賞し合う生徒）

実践発表②

◇イメージ「〇〇〇」（デザイン）

1年生のデザイン学習の一貫として、音からイメージを広げ、デザイン作品を制作する。

聞いた音から発想するイメージを線を使って表現する。その線からそれぞれ絵が好きなテーマを決め、線や○△×などの図形だけを使い表現する。

■成果と課題

成果

○発想トレーニング、連想トレーニングを頻繁に行うことで、生徒の授業に対する意欲も高まり、発想の幅は広がった。

○表現方法を限定しないことで、表現の意欲化にもつながった。

○超現実を表現の主題に据えることで生徒の表現意欲を喚起することができた。

課題

●イメージを表現するための資料収集がうまくいかない生徒は表現の幅が狭くなった。

●画用紙のサイズを選択させる事によって、作品のサイズが小さくなった生徒が多かった。

分科会3 「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入

「素材のもつ特性を 生かした導入の工夫」

神奈川県厚木市立睦合東中学校 小川 浩

■提案

色光と紙の冒険

色光授業へのアプローチ

永年、色料の三原色については事細かく授業で解説し色鉛筆での実習などを行ってきた。しかし、色光については簡単な扱いにとどまっていた。

いつか体験的な色光の学習をさせたいものだと思っていたところ、今度の中学校指導要領では、初めて共通事項で光の性質についてふれられているのである。

そこで、小中連携活動で小学校で参観した造形活動の、「紙の特性に気づく授業」を思い出した。その時の感想は「紙の造形は面白いな、光の当て方を意識するともっと美しいのにな」であった。

教材準備

実験や試行錯誤の上、LEDならどうだろうと調べると、何とかそれらしいものがあつた。消耗品費3万円以内が基準である。6800円のスポットライト。R・G・B3個買っても2万円ちょっとである。取り付けの器具（クリップライト）3セットで約1万円。手に入れて、早速実験してみた。おお！美しい！これなら生徒も感動してくれるはず。

授業準備

小学校で見た、班ごとに話し合い、テーマを決めて、切る・折る・ねじる・編む等加工し、台紙に貼り付けていく。という造形活動の良さを生かし、鑑賞の時に色光の性質を利用して、効果的にショウアップしながら鑑賞することにした。

素材の特性を生かした紙についての素材感

導入 紙の歴史

まずは素材の成り立ちや、紙に記録できることで、知識を蓄積できるという歴史的・文化的重要性について知る。また、和紙が日本の文化や生活に、いかに深く関わってきたかを知る。そのことにより関心意欲を高める。

性質・特徴

素材の優れた特徴（加工しやすさ・柔らかさ・半透光性等）と幅広い可能性を知ること、発想の豊かさを引き出す。

加工方法

多様な加工方法を知ること、発想を引き出し、また、加工する工具や用具の使用法を理解することで、安全で効率的な制作を心がけさせる。

展開 制作

班でテーマ設定する

お互いに話し合うことで帰属感、愛校心を育てたいと思い「睦合東のイメージ」というテーマとした。

班で制作

制作のための貸し出し用具を班ごとに準備した。また、話し合いながら、互いの作品を鑑賞しながら制作できるように班の隊形にした。

作品の連結・掲示

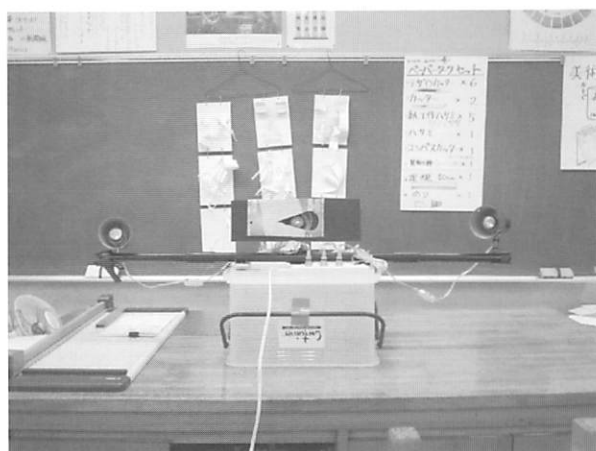
完成した作品を台紙の穴と穴とをカーテンフックで連結し、黒板に班ごとに掲示させた。

鑑賞会

各班2分ずつ「班のテーマについて、制作しているときに気づいたこと感想」について発表していく。質疑応答を入れながら6班発表をする。発表以外の生徒は発表を聞きながら鑑賞カードに記入する。

終末

現代の映像文化は、ディスプレイの3原色（R・G・B）抜きには考えられない事を伝え、光のデザイン、照明のデザイン等（間接照明やカクテル光線）に関心を持たせ、生活の中で行かせるよう指導する。



■成果と課題

今まで、やってみなかった授業が今回やっと実現し、今までの怠惰な自分を反省しています。ただ、三原色を重ねたとき、生徒のあげた「オオーッ！」という声に教師で良かったなと思う私です。成果としては、興味・関心・意欲、色光の三原色について興味をもつ事ができる。光を当てることを楽しみに積極的に取り組める。材料の特性や特徴を学習し、それを基に独自の発想を楽しむ事ができる。鑑賞の能力、自己作品制作のねらいをもち試行錯誤し、他者作品のねらいを理解する機会ができた。課題は、生活の中でこの学習をどう生かしていくことができるか考慮中である。

分科会3 「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入

「素材のもつ特性を生かした導入の工夫」

長野県 千曲市立戸倉小学校 梅田 仁久

■提案

導入で、いかに子どもたちの心を引き込むか…。

どの教科でも同様であるが、図画工作科の授業においても、導入段階における題材との出会いは大きな意味をもつ瞬間である。そして、図画工作科では、それに加えて素材との出会いがある。題材と出会い、素材と出会う（出会いの順序は展開によって様々であろうかと思う）。教科のなかでも、図画工作科は、ふたつの瞬間において、子どもたちを表現の世界に引き込むことができる教科なのである。

この図画工作科の性質を生かした研究のひとつが「素材のもつ特性を生かした導入の工夫」である。素材の特性を生かして、表現のきっかけをつくり、イメージや発想をふくらめ、「創造性あふれる作品をつくりたいという意欲」を引き出す授業を考えるためのささやかな一助となれば幸いである。

素材のもつ特性を生かした導入といえば、授業の冒頭でまず素材と出会い、素材を見、素材に触れることによって表現のための発想をふくらませていくのが一般的である。今回は、素材との出会いをより効果的にするために、題材やその素材のもつイメージとの出会いを大切にするという導入を提案したい。

なお、導入に焦点を当てるにしても、単に導入だけを取り出してその善し悪しを判断することはできない。一題材全体・一授業全体の組み立てをもとにした導入として捉えることが基本である。

本校の実践から、低学年部会（1年生）と中学年部会（4年生）での取り組みを紹介したい。

① 低学年（1年生） おはなしの読み聞かせから引き込む題材、そして粘土との出会い

題材『たまごからながうまれてくるのかな?』において、想像上の生き物を試行錯誤しながらひねり出していくことのできる粘土の可塑性や固まり感は欠かすことのできない要素である。

絵本『だれのたまごかな』の読み聞かせをし、題材に対するイメージをふくらませるようにした。1年生であるから、実際に素材に触れ、つくりな

がらイメージや見通しをもつことができるようにしていく過程を経るが、そのためには試行錯誤しながら表現できる粘土という素材は、なくてはならない。

② 中学年（4年生） 題材にかかわる映像のイメージから引き込む題材、そして粘土との出会い

題材『ワクワクドッキドキのムーンスペースランド』において、月面を想起させるための粘土がもつ素材感はいへん重要である。粘土の特性と表現意図をうまくアジャストさせるために、子どもたちに段階を追って映像資料を提示していった（ちなみに本校の研究では、この資料の提示も表現へのイメージや見通しをもつための鑑賞と位置付けている）。

スペースシャトルが発射する映像、月面の様子や月から見える地球の映像の視聴は、子どもたちの宇宙に対するイメージをふくらませるために効果を発揮した。

そのあと、参考作品と表現素材に出会い、一気にイメージや発想をふくらませていった。



■成果と課題

成果のひとつは、導入段階で、素材との出会いの前に題材との出会い方を工夫したことによる。イメージを高めてから素材に触れることができるために、子どもたちからアイデアがあふれるようになってくる。表現に対するイメージや見通しをもちやすくすることも、素材のもつ特性を生かすことにつながるはずである。

課題のひとつは、その素材に適した表現と、アイデアとのずれをいかに少なくするかということにある。子どものすばらしいアイデアを実現させるための技法や用具の使い方についての教材研究も、そこに含まれる問題であると思う。

分科会3 「みる」をきっかけにした創作意欲を高める導入

素材のもつ特性を生かした 導入の工夫

静岡県 静岡市立番町小学校 澤 直木

■提案（発表内容の要旨）

◇つくりだす喜びに向けて

素材と出会い、場所や時間が保証されたとき、子どもたちの心の中にどんな思いがわき起こるか。それがまったく未知の素材であるならば触ってみたい、何だろう、どんな活動が始まるのか、子ども達の期待感は一気に高まる。素材の特性のおもしろさ、場所や環境の違いで変化する素材の特性を充分に感じる場所や時間を保証することを大切にし、「つくりだす喜び」を感じさせたいと考えた。

◇素材の特性との出会わせ方

～養生シートをみる「見る」「触ってみる」
「試してみる」～
(小学校5年生造形遊びの実践より)

○養生シートを知る活動

図工室の真ん中に無造作に山積みされた半透明のビニールシート群。その量と無造作な感じから何か面白そうなことが起きそうだ、できそうだ。と子どもたちの期待が膨らむ。子どもたちのやってみようという意欲と、心を開いて活動ができる安心感をビニールの山を見ることからもつことができたようだ。

教師の「シートで遊んでみよう。」の後、さっそく、シートに触れてみると、思っていたよりも軽く、フワフワしている。また、普段使っているスーパーのビニール袋と比べても薄くて軽く優しい印象を受ける。裂くこともたやすくできる。子どもたちは広げてバタバタさせたり、体に巻き付けたり、引っ張ったり、友達を慎重に乗せてみたりと養生シートを楽しみながら、素材の特性を感じていた。

今回扱った素材である養生シートは非常に扱いやすく、子どもたちから豊かな想像を生むのに適していた。

「知る活動」の後、養生シートの特性について、クラスで情報交換を行い、感じたこと・気付いたことを共有し、自分が知らなかった特性を知ることができた。

○養生シートで何ができるかを試す活動

養生シートの特性を知った子どもたちは、教師の投げかけで、さらに、ダイナミックなもの美しいものを求めて、意欲的な活動を展開した。自然発生的にできたグループで、図工室にある机や椅子を包んでみたり、長い廊下へ出て、長く伸ばして床に敷いてみたりと試す。またテープで留めて

広いシートにするグループもあった。子どもたちの発想が広がっているタイミングで、様々な色のスズランテープと幅広の透明テープを使ってよい素材として新たに紹介したところ、スズランテープの色に注目して、工夫をしたり、シートにはない紐状の形に注目してシートの補助素材として活用したりと養生シートの特性を活かしつつ、さらに活動を広げていった。

実践授業発表

発表は、造形遊びの授業実践を行う。



■成果と課題

- 最初の出会いで、何の制約もなく取り組ませたことで、子どもたちが自然に入り込むことができた。教師の「遊んでみよう。」などの投げかけは、想像をふくらめ、意欲を増す言葉として刺激的であったようだ。また、自然発生的にできたグループで、その後も活動させたことはのびのびと活動したり、考えを広げるのに有効であった。
- 出会いの時間に素材（養生シート）とたっぷり遊んだことが有効に働いた。素材の特性のよさに気付く子、共同でつくることに目が向いている子の2つの視点が、その後、まとまっていった。
- 学年にあった素材（扱いやすい素材・子ども達が初めて出会う素材）であった。また、補助素材として扱った「スズランテープ」もシートの形態を保ったり、半透性を活かすきっかけにもなり活動を広げる手だてとなった。
- 子どもたちの活動に無意識的に「包む」行為が目立った。また、スズランテープが風で美しくたなびく良さに気付かない子どもが多かった。場の広さや時間的なことを考えると限界であったかもしれないが、高学年の造形遊びと考えた場合、素材の特性や環境から、色や形のよさへの視点など、もっと広く視野を広げて、活動を進めるための手だてが必要であったように感じる。

分科会 4 「みる」ことで作品への想いを深める授業

「製作過程における表現主題との 向き合わせ方」

山梨県 甲州市立東雲小学校 古屋 ゆ か

■提案

～はじめに～

入学したばかりの1年生の中にもいる「図工は嫌い」という子ども。どうしてかと尋ねると、「何をしたらいいのかわからないから」という返事が返ってくることもある。"きれいな作品"でないと駄目という思い込みや、こんなことをしたらいけないのではないかという気持ちにとらわれて、思うように作品づくりができない子が多いため、自分のやりたいようにつくるのではなく、友だちの真似をすることで安心感を得ている。そんな子どもたちにも、自由に自分を表現する楽しさや、つくりだす喜びを感じさせてあげたいと考えている。

～「つくりだす喜び」を感じる授業のために～

①題材について

- ・子どもたち一人ひとりが興味をもち、その興味を持続させることができる題材であること
- ・一人ひとりが自分らしさを発揮できるような題材であること
- ・試行錯誤しながらつくっていく題材であること

②授業について

- ・自分なりの表現を思い切り楽しめるような、子どもと題材の出会いがあること
- ・身近な材料を生かしながら、材料経験を広げられるような準備や提示の仕方をする
- ・友だちとの関わりをもてるような鑑賞の時間「図工たんけん」を行うこと
- ・低学年の子どもなりに、見通しをもてるような振り返りをする

～実践授業～

第2学年 「わたしは ○○ミノさん」

A表現(2)及びB鑑賞(1)

①授業にあたって

登校中に子どもが拾ってきた1匹のミノムシが、子どもたちの間ですっかり人気者になった。そして「わたしもミノさんになりたいな」という声が子どもたちから上がり、変身ショーをすることになった。そんな日常の風景から生まれた題材。



②「みる」ことについて

- ・導入で場所を「みる」ことにより、イメージを膨らませ、活動への意欲を高める
- ・「図工たんけん」で材料や友だちの姿の面白さなどを互いに話したり聞いたりしながら、楽しく「みる」
- ・試行錯誤しながらつくる。やって「みる」、試して「みる」
- ・表現に生かす鑑賞
- ・作品カードを利用した制作過程の記録、ふりかえり、支援

■成果と課題

「図工たんけん」として設けた時間以外に、困ったことがあった時やヒントが欲しい時も自由に友だちの作品を見に行き、質問して教えてもらっていた。友だち同士で良さを伝え合ったり、手助けし合ったりすることができた。また友だちに作品をほめてもらうことで自信をもつことができ、安心して自分の思いを追求することができた。中には自ら友だちに「どう？」と作品を見せに行く子がいるなど、作品をきっかけに進んでコミュニケーションを図ろうとする姿も見られた。

この実践の後、以前は「図工は嫌い」と言っていた子の一人が、「図工はちょっと好き」と話すようになった。他の子どもも、いきいきとして作品づくりに取り組んでいる。友だちとの関わりや、積極的に「みる」ことにより、単なる真似ではなく、自分なりの工夫を楽しめるようになったことが、つくりだす喜びにつながってきたと感じている。

子どもたちにとっては思い切り楽しめた題材だったが、一方で材料の経験という点で新たな挑戦が少なく課題がのこった。友だちの作品を見合うだけでなく、教師による提示を工夫することで、更に材料経験が広がったのではないだろうか。

分科会 4 「みる」ことで作品への想いを深める授業

「製作過程における表現主題との 向き合わせ方」

群馬県 渋川市立渋川北中学校 伊藤 弘 美

■提案

生涯学習の視点から考えると、スケッチや鑑賞能力等、感受性豊かな中学生の時期に身につけたい基礎的技能は多く、教科として将来に果たす役割は大きい。生涯にわたり美術を愛好する気持ちを育てるには、自分の思いに基づき心豊かに主題を決定し、それを他者に訴えるためにしっかりと構想を練り、自分なりに納得いくまで工夫して表現することで感じる「創造活動の喜び」を味わわせることが大切である。そのためには、苦手意識を持たせぬよう指導方法を改善し、生徒一人一人が基礎的能力を確実に身につけ喜びを感じられるような確かな指導をすることが重要となる。

そこで、制作過程において表現意図（想い）を明確にさせ、それを意識させるような活動を取り入れることは、より思い通りの表現を探究することにつながり、ひいては創造的な技能を高め、作品の質を向上させることもできると考えた。

【実践】

題材名 2年「自分らしさを見つけて
～ドライポイントで表そう」

1年生で基本的な描写技術を学習した2年生は、より緻密な表現や作業を好む傾向にあるため、繊細で、立体感や質感までも表現できるドライポイントの描写技法は例年好感を持って受け入れられている。テーマを「自分らしさを見つけて」とし、日頃から見慣れている自分の顔を深く見つめ、中学生という思春期まっただ中の複雑な心情を、自分なりの感情表現にこだわり、納得いくまで思い通りの表現を探究しようとする気持ちを育てたいと考えた。しかし、生徒達は、自分の作品に対して満足するのが早く、よりよいものにしたいという欲求をもって努力する生徒は少ないため、独創性をもった作品にはなかなかならない。

今回のドライポイントにおいては、やはり第1段階である自分の表現主題の設定や、第2段階である下絵スケッチの充実が必要不可欠となってくる。そこで、下絵スケッチ制作過程で、互いの作品の表現意図を読みとり、創造的な表現の工夫な

どを感じとるような相互評価活動を取り入れれば、自分の作品が主題を表現することができているか見直すとともに、友達の作品の技術面での良さを取り入れて下絵スケッチを修整することができ、第3段階である彫りや第4段階である刷りの制作活動に向けての制作意欲を増すとともに、主題を表現するための課題意識を持って制作活動を行うことにつながると考えた。

■成果と課題



利用し、教師が生徒の思いや課題を把握した上で意図的に指導に生かすとともに、生徒自身が自分の作品の課題を見だし、その改善のために解決方法を探り、より良い表現を目指す気持ちを持たせるために、相互評価活動を取り入れていくことが有効であることを改めて確認することができた。自分の思い（表現主題）が他者に伝わっているのか確認したり、同世代の友達の作品に触発されたりすることで、自分の作品の表現主題を改めて追求する機会を設けると、生徒達は「完成」だと思っていた作品に対して、より良い表現を目指そうと努力することができた。内面的、技術的な作品の質の向上もさることながら、明らかに改善された自分の作品を前に、ただ「完成」を目指すだけの表現活動では感じられなかったであろう達成感、「創造活動の喜び」を感じていた生徒が多かったのが何よりの成果だと考える。

今回のように、制作の過程で相互評価活動を行い、自分の作品の課題に気づかせるためには、全員の生徒が自分の作品に対する思いをしっかりと持っていることと、その時点で全員の制作の進捗と完成度がそろっていることが望ましい。しかし、現実には、学習カード等を活用しても、主題を決定する段階から生徒達の制作活動には温度差と進捗差が出始めてしまう。いかに遅れている生徒の意識を高めていくかが課題である。

分科会 4 「みる」ことで作品への想いを深める授業

「制作過程における表現主題との 向きあわせ方」

静岡県 浜松市立三ヶ日西小学校 山口 亜希子

■提案

新学習指導要領では、図画工作科での言語活動の充実を「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。」と鑑賞の内容を中心に記載している。「みる」ことがただ単に自分一人だけの視点だけで「見る」のではなく、多くの人と関わり合い、話し合いながら多様な視点で「みる」ことが重要だと考えた。つまり、表現活動における言語活動の充実を図ることが作品への想いを深めていくのに必要なのではと考えた。また、視覚のみならず、感性を使って「みる」ことも大切である。豊かな表現力を身に付けるために、言語の代わりに形や色を使って、他とともにみて、考え合い、練り合うことも大切なのではと考えた。他者と関わることで、自分自身の目では分からなかった自分の隠されたよさを発見することができる。また、他者の表現意図を読み解くことによって、自分の表現の一部として内化し、新たな表現を生み出す一歩ともなる。他者の考えを知ることで、自分の考えの再構築ができるようになる。「みる」＝「コミュニケーション」ととらえ、コミュニケーション活動の充実を通して、より一層、発想力、創造的な技能の力を子どもたちから引き出すことができると考えた。コミュニケーションの充実を図るためには、共同を柱に次の4つの相のコミュニケーションを具現することが有用であると考えた。

- (1) 課題意識の洗練を促すコミュニケーション
・話し合いをしながら、題材への興味関心を高めるとともに、課題を把握する。
- (2) 創意と技法の交換を促すコミュニケーション
・自分の考えを発信し、他者の考えに共感し、共有し、自分の表現をさらに追究する。

(3) 意図を生み出すコミュニケーション

- ・表現方法、発想を製作をしながら練り合い、よりよい表現を追究する。

(4) 意図を読み解くコミュニケーション

- ・感じたことへ共感し、作者の意図と表現のよさを追究する。

実践授業発表

発表では、5年生の授業実践「おらがまち『浜松』から」～地域文化をつなげる造形活動～（アポリジニアート）を中心に取り上げる。コミュニケーションしながら、表現することそのものを楽しむために、「読む」「書く」といった言語を持たず、絵や記号を描くことによって人に情報を伝えていくアポリジニアートという題材を取り上げた。



■成果と課題

授業の中で導入部分、製作中、仕上げの部分、鑑賞と4段階に4つの相のコミュニケーション活動を活用して取り組むと、豊かな表現ができるようになった。発想、創造的な技能、鑑賞の視点、それぞれが互いの交流によって洗練することができた。子どもは改めて、自分の力を実感し、自信につながった。また、他のよさを自分の表現として生かすことで、より製作に集中し、自分の納得いく、より深みのある作品作りに取り組むことができたようになった。これからは、言語力が完全には発達していない低学年においてもどうコミュニケーション活動を展開し、豊かな表現力を伸ばしていくか、更に研究を進めていきたい。発達段階に応じた指導のありかたを考えていきたい。

分科会5 自分たちの生活を豊かにするための「みる」

「目的を意識したデザイン」

栃木県 宇都宮市立雀宮中央小学校 室井 礼子

■提案

用と美～言葉で想いを伝え、生活に生かす 作品づくりの工夫～

一生懸命作った作品なのに、教室で掲示した後は、家に持ち帰ってそのまましまい込んでしまうという児童は少なくない。作り上げた満足感だけではなく、生活を美しく豊かにする造形であり、実際に使えるものとして、自分で飾って楽しんだり生活空間に彩りを与えてくれたりするものを作りたいと考え、本題材を設定した。

今回の作品は「自分で見るもの」「相手に見せるもの」という目的を明確にした上で、自分の想いを表現するためにどうしたらいいかを考える時間を十分に取った。そして、お互いの作品を見合う場面を意図的に設定することで、他とのかかわりの中から、自らづくりだす喜びを味わえるようにした。また、製作にあたり作品と身近にふれあう環境づくりをすることで、活動全体を通して、自己実現に向けての表現ができるようになっていくのではないかと考えた。

さらに、できあがった作品を家で飾ることで、実際に「使う楽しみ」をふくらませていきたい。

①題材について

「わたしのお気に入り～わたしだけの
オリジナル写真立てをつくらう～」

本題材では、お気に入りや思い出の写真を使って、写真がより引き立つような額のデザインを考えた。まわりの色や形に重点を置き、実用と美しさを合わせた作品作りを行った。基本の材料は、厚紙や色紙を中心に扱いやすい材料を用いたが、今まで使ったことのある材料も自由に取り入れることで、表現の幅が広がるようにした。

- ・参考作品の提示（配色の効果・形の工夫）
- ・材料や素材の組み合わせ
- ・学習活動の流れの工夫

②言語活動の工夫

導入で自分の想いを語ったり、制作途中で友達のアドバイスを伝え合う場面を取り入れたり

することで、自他とのかかわりを表現活動に生かせるようにした。

- ・作品への想いを伝える
- ・アイディアスケッチ
- ・お互いの作品へのアドバイス交換

③鑑賞の工夫

製作途中の作品を教室の壁面に展示するような形で保管することで、活動以外の時間にも作品にふれあうことができるようにした。作品完成後は、教室を展覧会の会場に見立て鑑賞会を行った。

実践授業発表

発表は、本題材の授業実践を中心に行う。



○アイディアスケッチの段階でのアドバイス交換の様子

■成果と課題

第一の成果は、ほとんどの児童において、「作って楽しむ」「見て楽しむ」という実感を持って活動に取り組めたことである。作品を生活の一部として身近にかかわることができた。

第二に、言語活動を取り入れることで、作品に対する思い入れが深まり、制作への意欲につながったことである。友達からのアドバイスを採用した児童も多く、自他の作品へ親しみをより感じるようになってきた。

課題として、表現活動での自分の想いを伝えることの難しさや大切さを改めて実感した。自己実現のための基礎的な能力を高めることや、自分の言葉で想いを伝えるための工夫がさらに必要であると考えられる。

分科会5 自分たちの生活を豊かにするための「みる」

「目的を意識したデザイン」

埼玉県新座市立新座中学校 服部 方暢

■提案

題材名「三送会に光の芸術を飾ろう」（2年生）
—ステンドタワーの製作—

作品を見て、発想のよさや技術のよさなどいいなあとと思う体験は他への関心を高め、その見方・感じ方を身に付けていく学習を通して他者理解を深めていくこととなる。これらの活動は、人間関係を育む上でその基盤ともなる学習である。そして、こういった情操教育の場を学校全体に広げていきたいという考えから生まれた目標が、「学校美術館の実現」であった。学校生活の日常から、よさに触れる環境を学校全体に創っていきたいと考えている。

3年生のために尽くそうとする雰囲気や学校全体に満ちている三送会のこの時期こそ、日々の活動の延長として、この題材が最も目的意識を強く持ったデザイン学習となった。また、発表の形態としては、各学年が行う装飾が平面的なものに限られていることから、空間を飾るものとはならないだろうかと考えてみた。

(1) 題材の導入段階

目標を各自が立てるところから題材への取り組みが始まるというのが、今までの授業スタイルである。これまでは「こんなことができるようになりたい」「集中して取り組めるようにする」など様々であったが、「3年生を喜ばせたい」「楽しいと感じるものにしたい」など、目的意識の強い内面的な内容が多く出されている。

2年生の活動は単独のステンドグラス制作となるが、骨組みの制作は、地域からもらってきた竹を材料として特別支援学級の生徒たちが担当した。また、生徒会の決定した三送会テーマ『春夏秋冬1年間の思い出を胸に』と連携を図り、「春夏秋冬」の4つのタワーが体育館にそびえることになったのである。光源は骨組みの中に取り付けた蛍光灯各2本。その点灯のタイミングは、三送会の流れの中でグッドタイミングを計るのが生徒会の役目となった。こうして、この題材が美術の授業だけのものではなく、大きなプロジェクトとなったことが、子供たちの意欲を高めることにもなり、大きな喜びを生み出した要因になったと感じている。

(2) デザインの発想・構想指導

発想・構想の段階では、まずデザインのメインとなる図柄を発想するところから始めた。各自で思い描けるものには限界もあり、全員が1つずつあげていく連想ゲームには、意外な思いつきもあり、各自の発想を広げる手がかりとなった。次の段階は、配置のアイデアである。どんな配置があるかも、全体の場でアイデアを出し合うことで、生徒たちの気づきを導く方法をとった。

＜生徒から出てきた発想＞

- ・同じものをシンメトリーに配置
- ・繰り返しの配置
- ・大小の組み合わせからメインを強調する配置
- ・近景と遠景を区別した遠近を感じる配置

次の段階では、背景に感情を関連づけて線の引き方に注目した。曲線と直線、大まかな区切りと細かな区切り、メインを強調する線など生徒の気づきを取り上げながら進める指導は、自分の作品への愛着を生み、最後まで粘り強く取り組める雰囲気を高めていった。



■成果と課題

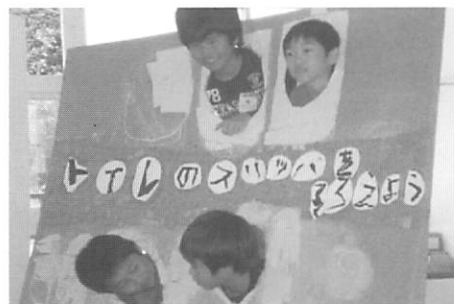
第1の成果は、「みる」または「みせる」ことを前提にした表現活動となったことで、生活を豊かにする美術の働きを体験を通して実感させられたところにある。表現の喜びが、見て楽しむ喜びにこの三送会が位置づけられたことだろう。生徒たちの感想にも満足した様子が多く伺えた。

第2には、指導課程において、子供の気づきをまず重視したことで、自ら考え実践していこうとする「つくり出す力」を発揮させられたところにある。教師は多くを教えるはならないことを改めて気づける取り組みであった。指導を発想・構想段階に絞ったことは、重点的な指導効果として、今後役に立てていきたいと考える。何を教え、何を導くのか意図的な指導課程を心がけたい。

分科会5 自分たちの生活を豊かにするための「みる」

「目的を意識したデザイン」

静岡県 静岡市立清水船越小学校 宮城嶋 理 重



■提案

①テーマ「つくりだす喜び」に向けて

子ども達は、どの時代であっても、新しい経験をしたり、楽しいものを見たりすることを好む。それを自分自身でも体験したり、創ったりしてみたいと考える。教師の指示を受け、教師の意図に沿った作品を制作するのではなく、子どもが自分自身の感性をはたらかせて心を膨らめ、自分が伝えたいことを相手に伝えたり、作りたいものを創ったりすることこそ、「つくりだす喜びを培う造形教育」であると考え、デザインの授業実践にとりくんだ。

②自分達の生活を豊かにしたいという思いをもたせる

題材を考えるに当たり、子ども達にとって主体的に営まれる日常の学校生活と、感性をはたらかせて心を膨らめらるきっかけとなる鑑賞授業とをつなげることが効果的だと考えた。

そこで題材指導の前半で、清水興津小5年生のデザイン作品「メッセージボード」を参考作品として借り、清水船越小の3年生で鑑賞するという学習計画を立てた。5年生が、各自の委員会から全校に発信するメッセージを、立体的で色彩豊かにクイズなども入れて、楽しく表現している作品を見て、3年生はとても感動した。見る人を驚かせるような楽しい作品を自分達も創りたいという意欲を膨らめることができた。

③見る人の立場を意識してデザインすること

子ども達は、身のまわりの活動から、発達段階に応じた「伝えたいメッセージ」を見つけることができる。それをどう表現したら、受け取る側の心に響くのか、子ども達は感性のアンテナを広げて見て感じとっていた。見る人の立場を意識して、言語活動をおりこみながらデザインした。子ども達は制作途中や完成時に鑑賞し合うことで、一人よがりな表現にとどまらず、さらに創造力をはたらかせて、完成させることで自分達の学校生活をよりよくしようという意欲が育った。こうした学習経験が、将来、自分たちの生活をより豊かにしていこうとする基礎になると思う。

実践授業発表「とびだせメッセージ」

平成21年11月11日

■成果と課題

- 展示する場所やダンボール板から体を出してメッセージを伝える展示法を仲良く考え合った。
- 等身大のダンボール板をグループ4人につ「全員が必ず顔を出してメッセージを伝える」という、共通のルール他は、子ども達のアイデアを最大限尊重し、自由に表現活動をすることができた。素材や接着方法を、試行錯誤しながら、より適切なものを見つけていった。用と美の調和を考えた基礎的な造形技術を高めていく様子も見られた。
- 言語活動を多く取り入れることが、図工においても大変効果的であることが確かめられた。グループごと、それぞれのワークシートに書かれた友達の意見を尊重して、共同作業を行うことができた。公開授業では、制作途中の中間発表を見合い、友達と意見を交換し合う活動を行った。自分たちが頑張っているからこそ、他のグループの活動への関心が高まり、相手のグループの問題解決に役立つ適切なアドバイスが多く出され、次の活動への意欲の継続が計れた。
- 図工室の机の並べ方を工夫し、大きな机の舞台上で発表する小劇場仕立てにした。「見る」「見せる」意識を強く持たせることができた。臨場感が子ども達の表現したくなる気持ちをさらに膨らめた。
- この「とびだせ！メッセージ」の授業で、自分のアイデアが友達の共感をよび、採用されて自信をつけた子ども達は、その後、他教科においても主体的になった。自分の伝えたいことを、堂々と表現したり、進んで事前準備をしたりする姿がみられるようになった。また、友達の作品に興味をもち、友達の考えを静かに聴き、作品を楽しんで味わう姿が多く見られるようになった。
- デザインの目的や、デザインに込めたメッセージをよりわかりやすく伝えるために、自分の作品を見直すことや、他の作品で見たよさを取り入れる時間を確保してあげたい。

分科会 6 地域との関わりを深めるための「みる」

「地域との関わり」

東京都 多摩市立多摩永山中学校 木原美恵

■提案

自分たちが住んでいる町、多摩永山の駅周辺にはいくつかの巨大オブジェが存在している。この地域に育ってきた人にとっては、当たり前のような存在であるためか、存在自体に疑問をもつことがないほどだ。ところが、一步、他地域に出かけてみると、違った角度から町を見ることができ、いつしか町のシンボルとなっている。

いったい何のためにアートオブジェが存在し、このような色や形、素材でできているのか、また地域の人々とどのようにつながり、どんな影響を与え、そこから人々は何を感じとっているのかを「みる」として言語活動を通して深めていった。なお、この鑑賞活動から、さらに自分が設置したいアートオブジェへとイメージを広げ、石という素材へのかかわりを考えると同時に、「篆刻の取手部分」の表現の活動に発展させていく。

① 「みる」とは、感じること

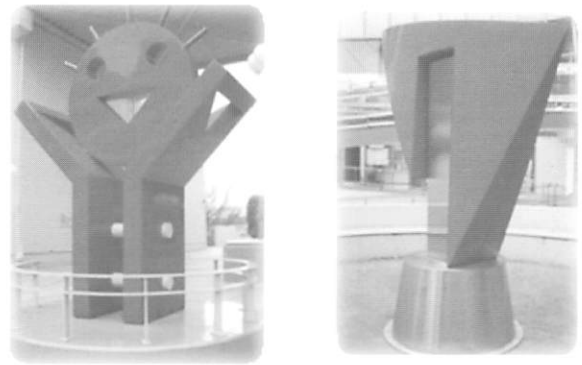
まず、素のまま、感じたこと、思ったことを述べることから第一歩が始まる。「大きい」「登りたい」「真っ赤」などの第一印象から、思い出話にまで発展した。全員が親しんできたアートオブジェであるため、すぐに話が盛り上がり、興味が湧いてきたようだ。

② 「本当にみえているもの」から話を深める

単なる思い込みや想像で話をつくるというのではなく、あくまで見えているものから、イメージをふくらませ、自分の感じたことや思いを伝える。そこから地域の人々との関わりを考え、アートオブジェという存在について思いを深めていった。

③ 自分ならばどんな思いを形に託すかを考える

人により感じ方や見方が違うので、様々な考え方や共通の要素を見付けたところで、「自分ならば」どんな思いを形に託し、発信していきたいかを考え、篆刻の取手部分へと制作をつなげていく。



■成果と課題

人は「みる」ことから情報をキャッチし、想像をふくらませていく。今までの知識や経験から獲得した言葉を使って、考えまとめていくことによってさらに「みる」ことを深めていく。

人は「みる」と同時に、「なぜ？」という疑問を抱き、そこに「考える」という行為が伴った時により深く「みる」ことができるものだと思う。

今回は、子どもたちが、物心ついたときから存在し、遊び道具として身近にあったアートオブジェの存在を取り上げることで、「みる」こと自体の体験がこれまでとは変わったようだ。一方的な存在であったオブジェが、「何のために」という疑問を投げかけ、「作者の存在や考え」、「地域の中の存在の意味」へと視点の広がりを与えた。

子どもたちにとって、単なる自己表現の活動であった美術作品が、作者の手を離れ、地域に置かれたとき、存在する意義や人々の心に何らかの影響を与えるものであることを感じ取ったようだ。また、美術が地域の中に溶け込み、私たちの生活の中で広がりや関わりを与えるものであることに気付くことで、美術作品が教科の枠を越えて生活を楽しく豊かにするものであることへの理解にもつながったようだ。

今後の課題としては、指導者自らが経験を豊かにして、感じたことや思ったこと、疑問を抱く態度を大切にするとともに、子どもの疑問を共感的に受けとめ、発問を工夫していく必要がある。また、生徒の様々な考えや違いを否定することなく、さらに発展させていくことで、多様性を受け止めていく指導を高めていくことが求められる。

知識や解釈を優先するのではなく、自分の感覚や考えで批評し、自己の思いを言語で素直に表現する力を子どもにはぐくむことが大事であり、それを引き出す発問を工夫していく必要がある。

分科会 6 地域との関わりを深めるための「みる」

「地域との関わり」

茨城県常陸太田市立誉田小学校 鴨志田 聡 子

■提案

児童一人一人はよりよく生きたいという願いをもち、自分の可能性を発揮し、豊かな自己実現を目指している存在であると考え。そして、造形活動においてもそれぞれが自分らしい考えや願い、子どもらしい想像力を働かせた夢など、その子らしいよさや美しさを目指そうとする思いをもっている。しかし、絵に表す活動は高学年になるにつれて苦手意識が強まってくる傾向にある。

写実的な表現へのあこがれから「見たように描かなければいけない」という意識が強くなるために、自分の表現に自信をもてなくなることがその理由の一つでなかろうか。そこで「いろいろな表現方法があること」「個性的な表現は大切であること」への意識の転換を図るために、「みる」ことを含めた指導方法を工夫することが必要である。具体的には、鑑賞したことが表現に生かされる授業構成の工夫や地域の美術館との連携による鑑賞の授業などである。

さらに、児童の作品を地域にも発表する機会を設けることで、一人一人の意欲や自信が高められると考える。図画工作・美術は豊かな人間性を育むために意義ある教科である。自分らしく表現することを大切にしている図画工作のよさを、作品を発表することを通して地域の人たちにも伝えたいと考えた。

～地域との関わりを深めるための「みる」に迫る～

①鑑賞したことを表現に生かす授業の構成

鑑賞で学んだ見方をもとに表現することができるような学習過程を工夫する。

- ・鑑賞したことを自分の表現に生かすための学習過程のモデルの構想と授業実践
- ・鑑賞対象としての美術作品の選定

②茨城県立近代美術館との連携

分析的に見たり、作者の意図や気持ちなどを読み取ったりするなど、作品を深く捉えることをねらった鑑賞活動を行う。

- ・グループでの話し合いを生かした鑑賞活動
- ・作者の意図と表現方法の関連の理解

③図画工作科の授業の地域への発信

児童の作品を発表する場を設定し、作品を見ることを通して地域との関わりを深めることができるようにする。

- ・地域のギャラリーにおいて児童の作品を発表する「卒業記念展覧会」の開催
- ・学校のホームページ上の「インターネットギャラリー」での作品発表

実践授業発表

発表は、第6学年の「絵に表す活動」の授業実践及び作品発表における地域との関わりを中心に行う。



■成果と課題

多様な表現方法を鑑賞したり、作者の意図や気持ちが生かされているということを手伝ったことは、児童の絵に対する見方を広げ表現への意欲を高めるために効果的であった。地域の美術館との連携で「ゲルニカ」の鑑賞の授業を行ったが、難解な作品であるにも関わらず、児童はその表現のよさや作者の意図を感じ取ることができた。このような多様な表現を認めることで自分の表現にも自信をもつことができるようになったことが大きな成果である。この自信が、自分の作品を地域にも発表しようという意欲に発展した。

また、展覧会は、保護者の協力も得て常陸太田市生涯学習センター内のギャラリーで行った。「インターネットギャラリー」では展覧会や作品を紹介した。展覧会は新聞や市の広報誌にも取り上げられるなど、児童の取り組みを広く伝えることができた。見に来ていただいた方に児童自身が作品の解説も行ったが、大変好評であった。作品を「みる」ことを通して地域の方と交流することができたことは、児童にとってもよい刺激になった。

今後は、自分たちの表現を認めてもらうだけではなく、地域に貢献できるような表現活動も工夫していきたいと考える。

分科会 6 地域との関わりを深めるための「みる」

「地域との関わり」

静岡県 駿東郡長泉町立北中学校 夏 目 幸 弘

■提案

たとえば自分たちが身につけた専門的な知識や技術を地域や社会に返していく、還元していくということではできないものだろうか。大人たちに負けない技術や知識を身につけ、中学生にだってこんなにできるんだという地域貢献をしていく。こうした活動こそが、最終的には次の世代の人間形成につながっていくと信じていたい。生徒は学校の生徒である前に、地域社会の大切な担い手予備軍でもあるのである。

今、ブームの「地方分権」や「地産地消」というキーワードは、地域で事を解決することの重要性を説いた考え方であるが、教育においても「地域」に根をはやしたその「地域」ならではの教育の在り方について「模索」していく必要があるのではないだろうか。もともと学校と地域は互いに深い関わりの中で育まれてきた。地域の理解や協力なしに今の学校教育は成立しないし、学校教育なしに住み心地のよい活性化された地域は存在しない。そこで、生徒による地域貢献プロジェクトをプロデュースした。

《夢プラン1》商店街のシャッターをアート

「自分たちの作品で街角を彩ろう」と裾野市駅前商店街の商店のシャッターに絵を描いた。

《夢プラン2》壁画で国体を盛り上げよう

2003年国体のリハーサル大会が裾野市で開かれると聞き、各県の代表選手がやる気や気合いが入る大壁画を制作した。

《夢プラン3》ウルグアイ代表に似顔絵贈る

サッカーW杯で裾野市に来たウルグアイ代表選手に似顔絵をプレゼントしたいと考え、市の生き生き政策室を通じ、監督に手渡された。

《夢プラン4》地域の史跡探訪マップ作り

校区の青少年健全育成課と協力し、「校区の史跡探訪マップ」を作成した。史跡探訪マップは、6千部作成され東地区全世帯に配布された。

《夢プラン5》ビッグアートで国体盛り上げ

市内の全中学校が共同し、一辺20cm四方のケント紙を立て20枚、横28枚使い、縦4m、横5.6mの大きな一枚の絵（ビッグアート）を

完成させるプロジェクトを行った。

《夢プラン6》老人福祉施設に壁画を贈ろう

市内にある3つの老人福祉施設にお年寄りが壁画を見て、元気になるような壁画を作ろう。そんな生徒の素直な気持ちがエネルギーとなった。

《夢プラン7》ゴミ清掃車にペイントしよう

ゴミ清掃車の外装へのペイントの依頼を受けた。生徒は、自分たちの作品が市内を走って家庭出たゴミを回収することに誇りを感じていた。



《夢プラン8》アートで商店街を明るく

約70店舗の商店街が協力し、商店街の地図と展示作品の生徒名を掲載した「裾野市アートフェスティバル・イラストマップ」も制作した。

《夢プラン9》市幼児用水遊び場をペイント

「幼児が楽しんで水遊びができるように」と裾野市立水泳場内の幼児用水遊び場のペインティングを行った。

《夢プラン10》側溝のふたにペイント

東地区商工振興会と共同し、環境美化運動・街づくりの一環で、裾野市東通りの側溝に河川美化の啓蒙や通りのイメージアップ、ポイ捨て防止などを訴えたペイントした蓋を各所に設置した。

《夢プラン11》市児童館の正門をペイント

「楽しい児童館になるように」と裾野市立南児童館の正門のペイントを行った。

■成果と課題

成果 (1) 主体的な活動の保障

(2) 感動的な出会い

(3) 体験活動の保障

課題 (1) 協力してくださる窓口の必要性

(2) 教師が地域にどれだけ精通しているか

(3) 調整役としての工夫

分科会 7 よさや美しさを感じとるための「みる」

「自分たちの作品を 味わう対話型鑑賞」

千葉県 千葉市立幕張西中学校 福 永 真 弓

■提案

「百聞は一見にしかず」とあるように視覚的な刺激は生徒の感性や直観を高めるとともに、創造的活動への意欲を高めることにつながっている。

「みる」活動というと、美術作品の鑑賞や自分や友人の作品を鑑賞することで、作品のよさや美しさを味わう活動ととらえられることが多い。しかし、授業の導入時や作品の制作過程の中での「みる」という活動では、作品の制作意図や自分の表現したいことを確認し、素材のよさに気づくことや技術の向上といった創造的活動への意欲向上につながっていくと考える。

そこで本研究では①導入時の「みる」②制作過程の「みる」③作品完成時の「みる」の3つの「みる」活動を意図的に設定することで、創造的活動への意欲がどのように高まるのかを確かめた。

①導入時の「みる」

生徒が思う（次は何をするのだろう）というドキドキした気持ちと、美術作品や参考作品を「みた」時の（わあ～すごい）といった感動が、創造的活動への原動力となるであろう。

- ・導入時の美術作品や参考作品の提示の仕方の工夫。
- ・めあて、評価基準や作業工程を確認し、見通しを持たせる資料づくり。
- ・材料や道具、資料などの環境整備。

②制作過程の「みる」

自分の表現したいものを確認し、どのようにすればイメージに近づくのかを、友人の作品を「みる」ことや自分の作品と向き合う機会や環境を整えることで、様々な表現方法や技術を習得するであろう。

- ・お互いの作品を見せ合う授業展開の工夫。
- ・材料や道具、資料などの環境整備。

③作品完成時の「みる」

完成した自分の作品や友人の作品を「みる」ことで、作品のよさや美しさを味わうことができる。また、作品の制作意図を感じとったり、確認することが、達成感や自信につながっていくであろう。

- ・作品展示や環境の工夫。

・対話型鑑賞や発表会などの授業展開の工夫。
実践授業発表

工芸「ランプシェード」の授業において、対話型鑑賞を実施した。①導入時に参考作品を提示した際、間接照明の効果や日本古来より使用されている和紙について、説明を交えながら制作意欲を高めた。②制作過程では班単位で「みる」活動を取り入れ、お互いに作品のよさや美しさを認め合うように工夫した。③作品完成時には制作意図や作品への想いをまとめたあと、学級単位で鑑賞を行った。



■成果と課題

対話型鑑賞の形態をとることで、「みる」側が、作者の制作意図を意識しながら、作品を「みる」ことができた。感性や直観を高める手段としての対話型鑑賞は有効であると考えられる。また、制作途中での「みる」活動では、作品のイメージを再確認するだけでなく、友人からアドバイスをうけることで、イメージに近づく手だてをつかむ生徒もいた。

課題は、作品のイメージや感想を述べることに個人差がでてしまうことや、全員の作品を一つずつ鑑賞すると時間がかかることである。また、鑑賞の評価についても考えていきたい。

分科会 7 よさや美しさを感じとるための「みる」

「自分たちの作品を 味わう対話型鑑賞」

埼玉県 さいたま市立つばさ小学校 依田 淳子

■提案

3年生の題材で、リズムカルに釘を打つことを楽しみながらも、創意工夫して自分の思いを形にすることをねらいとした活動を行った。大きさも形もちがう木片の中から自分が使いたいものを選び、適切な長さの釘を打ち込みながら、人や動物などの生き物をつくりだす。「木片」「釘」といった単純な形から、「何をつくるのか」というイメージをもって表現するためには、感性を働かせて思考・判断することが求められる。また、材料を吟味したり、つくる途中の作品を見たりみたりすることが、多様な表現に結びつく。

そして、出来上がった作品を自分の作品のイメージに合った場所に置き、互いに鑑賞しながら写真撮影する活動を行った。

具体的な活動内容

- (1) いろいろ試しながら、かなづちで釘を打つ。
 - ・様々な形をした木片を手にとり、気に入ったものを選ぶ。
 - ・好きな長さの釘を選び、場所や打ち込む長さを考えながら釘打ちをする。

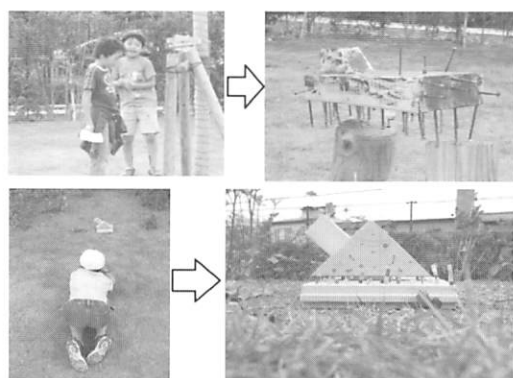


- (2) 釘を打った木片を見て、発想を広げる。
 - ・釘を打った木片を何かに見立て、さらに釘を打ったり、他の木片と組み合わせたり、身近材をつけたり、絵の具で彩色したりする。



- (3) 自分や友達の仕事のよさやおもしろさを感じ取る。

- ①出来上がった作品を、校庭や校舎内の一角など、お気に入りの場所に置く。
- ②アングルやポジションを工夫し、自分の作品や友だちの作品をデジタルカメラで撮影する。



- (4) 写真を見て、感想交流をする。



■成果と課題

自分の大切な作品を置きたい場所に置き、周りの景色にとけ合った作品をアングルやポジションを工夫して写真撮影することで、さらに作品のよさを引き出すことができた。写真には、作者がどのような意図でその作品をつくったか、鑑賞者がその作品のよさをどうとらえているかなど、さまざまな思いがこめられていた。互いの写真を見た時の子どもたち驚きの声は新鮮であった。

課題は、このような鑑賞活動のアレンジをさらに試みることである。みる楽しさを存分に味わえ鑑賞をさらに追求していきたい。



分科会7 よさや美しさを感じとるための「みる」

「自分たちの作品を 味わう対話型鑑賞」

静岡県 静岡市立長田西小学校 玉田 千恵子

■提案

「1枚の板から1枚の板の変身物語を演出しよう」
～作品の演出を対話型鑑賞ととらえて～の授業実践より
〈仮説〉

単元の中に、自分の思いと向き合う3つの「みる場①②③」を設定することにより、友だちや自分の作品を見て、意見交換し、作品の中に表れる私らしさ(よさ)に気づくことができるだろう。

〈手立て〉

□みる場①(作品制作の場)において

—素材を通して自分の思い

(こだわり)と向き合う—

- ①抽象立体作品の鑑賞
- ②スパイラル刃の使用
- ③一枚の板に戻すパズル体験
- ④強力接着剤の使用



□みる場②(作品演出の場)において

—自分の作品をみることで、

自分の思い(感じていたこと)と向き合う—

- ①さまざまな見せ方(演出方法)の体験

□みる場③(作品を主人公にした物語作成の場)において

—友だちの作品をみることで、

自分や友だちの思い(作品の新たな価値)と向き合う—

- ①ストーリーを作る
- ②色、形、動きに注目してみる
- ③グループ対話
 - ホワイトボード、付箋紙の使用、色○対話に
適当なグループの人数○対話方法の指導、
ふりかえり

■成果と課題

□みる場①(作品制作の場)において

抽象立体作品の題名当では、作品の形、色、リズム感…そのものが作品の価値になっていることに気づかせるきっかけとなった。更に、本単元での、木を触り、切り、組み合わせるという過程に生まれる自分の思いを大事に制作していくというねらいが子ども達に伝わった導入となった。また、自由に切断可能なスパイラル刃の使用は、イメージ通りに切ることを可能にし、強力ボンドの使用も子どもの思いを形にすることに大いに有効であった。そして、切りとった形を1枚の板に戻す活動

は、無意識のうちに形に目が向く体験となった。素材と向き合わせる場面では、2つのパーツを選択し、さまざまな組み合わせを考えさせた。たかが2つでもその組み合わせは無限にあり、形によって自分の気持ちに合う物と合わない物があること発見した活動となった。それこそが自分のこだわりであるといえるだろう。

□みる場②(作品演出の場)において

1枚の板を立体に変身させ、題をつけさせてみた。そして、立体の周りには何が見えるのかと投げかけてみた。その際、さまざまな演出方法を体験させた。【(例)鏡に映す、背景(絵、写真を実物投影機で写す)をつける、暗闇の中でライト(懐中電灯、LED)、風で揺らす】。その結果、道具や材料を自由に使い試行錯誤しながら、自分の作品と向き合い夢中になって活動する姿が多く見られた。

□みる場③(作品を主人公にした物語作成の場)において

4、5人のグループで自分の作品を持ち寄り「1枚の板の変身物語」を作った。そして、6年生という発達段階を考え、共通事項の「色」「形」「奥行き」「動き」という視点でみさせるために、付箋紙の色ごとに視点を分けて気づきを書かせた。鑑賞に目的と視点を与えることにより、単なる感想に終わらずに、演出を通しての対話が生まれた。また、ホワイトボードの活用はアイデアや順番を残し共通理解させ対話を深めるために、有効であった。普段ほとんど友だちとかかわりを持たず言葉を発しない児童が、友だちの演出方法をみて、自分の演出を変え、作品の台詞を言うことができた。この活動により、自分屋友だちの作品と向き合い、心を揺り動かされるような新たな価値に気づいたのである。

3つの「みる場」はみることによって生まれる子どものイメージと制作をスパイラルに継続させ、自分のもつイメージに変化をもたらした。一時間ごとの言葉による制作のふりかえりからも、子どもが変化を感じ楽しんでいることが読み取れる。今回は特に、満足度という視点でのふりかえりも行ってみたが、単元が進むごとに満足度が高まり「みる場」と「対話」が制作に大きく影響を与えたことがわかった。自分の作品への価値も高まった。

今後、更に、見方の視点の与え方、対話の目的、形態、対話に使う言語(=思考)の洗い出し等が対話型鑑賞を深める為に必要であると考え。勿論、みることによる感動の存在は不可欠である。

分科会 8 よさや美しさを感じとるための「みる」

親しみのある美術作品を活かす

新潟県南魚沼市立塩沢中学校 榎 並 明日香

■提案発表内容の要旨

新潟県南魚沼市塩沢地区には、魚沼歌舞伎や世界の仮面の収集・展示に力を入れている、南魚沼市立今泉博物館がある。地域の人々や生徒たちに親しまれているこの「仮面」という題材に着目し、授業の課題として設定した。

本実践では、身近な親しみのある美術・地域の素材を活かすことで学習への興味関心を引き出そうと考えた。併せて創作と鑑賞活動にどう関わっていけばいいのかという視点にも興味をもたせる事で積極的・主体的な取り組みを引き出そうと構想した。

実践の過程で、身近な美術作品は生徒の興味関心を引き出し、作品のイメージをつかむ大きな助けになった。さらに、作品鑑賞を通じて「仮面」の文化的・歴史的背景を理解し、自分の表現活動に繋げる生徒の姿も見る事ができた。

■授業の展開

題材名：「心の仮面」 第1学年 全25時間
(一次：導入)

身近な仮面とその歴史について、今泉博物館の仮面作品を紹介しながら、仮面の歴史やその用途について学んだ。博物館について生徒に尋ねたところ、大半の生徒が何度も訪れたことがあり、また仮面についての予備知識があったことは、制作の大きな助けになった。

(二次～五次：仮面制作の構想から作品完成まで)

仮面制作と平行して、仮面を使ったパフォーマンスを計画した。博物館に展示されている仮面に様々な用途があったように、生徒たちが制作する仮面も制作するだけで終わらず、仮面として使用することを前提に制作を行った。パフォーマンスは6人班で一つのグループを形成し、パフォーマンスの計画から、仮面づくりの構想までを一緒に話し合い、意見を出し合いながら制作を進めた。仮面のテーマは自分の「心」とし、日常生活で感じている自分の「感情」や「気持ち」に迫り、形・色彩を工夫したものを制作した。

(六次：作品・パフォーマンス鑑賞会)

完成した仮面を使ったパフォーマンスをあらか

じめビデオ収録し、今泉博物館でスクリーンを使い発表会を行った。生徒の仮面作品のほうは、博物館に収蔵されている仮面と一緒に展示され、自分の作品と世界の仮面作品を比べて鑑賞することができた。



■成果と課題

大きな成果は、仮面制作の課題を通して生徒たちが、主体性を発揮し始める過程が見られたことである。制作当初は与えられた課題をどう終わらせるかという事を考えていた生徒が、班での話し合い活動や作品の鑑賞活動を通して、自分の表現したいものが明確になり、制作に意欲的に取り組む姿が見られた。作品をただ完成させるだけの課題ではなく、博物館で仮面を使って表現活動を行うという目的意識が、生徒たちの学習への意欲を高め、主体性を発揮するに至ったと考える。地域の博物館・美術作品が生徒たちの制作イメージをつかむための大きな助けとなった。発表会・鑑賞会では、教師からの支援を必要とせず、自分たちの仮面とパフォーマンスについて工夫しながら堂々と発表する姿が見られた。学校外の授業の参観者からも意見や質問が交換でき、学びの場の広がりや教室を超えての授業の持つ可能性に気づくことができた。

今後の課題は以下の4点である。

- 地域の博物館・美術館と生徒たちのつながりを失わないように、館と連携して教育活動ができるように継続して働きかけていくこと。
- 美術作品だけでなく、地域独自の素材や自然を生かした、生徒たちの生活に身近なものを取り入れた教材研究。
- 生徒たちが主体性を発揮するまでの個人差を見取る手立ての工夫。生徒の多様な表現活動に対応できる支援が必要である。

分科会 8 よさや美しさを感じとるための「見る」

「親しみのある美術作品を生かす」

群馬県 高崎市立桜山小学校 黒澤 馨

■提案

近年学校と地域の美術館の連携が深まってきている。平成20年、群馬県立近代美術館から、所蔵作品による「アートカード」が、県内の各学校に配布された。これは、学校での「鑑賞」の授業に公共の財産である作品を活かしていきたいという考えからである。「アートカード」は、使い方がいろいろ工夫でき、子どもたちが美術作品に親しむための教材としては大変有効であるといえる。また、今年3月、同美術館で、新たに「授業で使える！鑑賞ガイド」が作成され配布された。これは、個別作品の鑑賞のために、群馬県ゆかりの3人の画家の作品から、それぞれ2点を厳選し、作品や作家の解説、鑑賞のポイント、授業の展開例などを紹介したものである。小学校では、図工・美術が専門の教員でなくても、鑑賞の授業を行わなければならない。その時の「教員向けの解説書」として役立つためのものである。授業の準備に手間取らないよう、別冊でコピーしてすぐに使えるワークシート集が付いている。また、同美術館では授業についての問い合わせを受け付けたり黒板掲示用の作品の拡大コピーを貸し出したりもしている。

鑑賞をする場合、実際に美術館に出かけて、実物を目の前に鑑賞したり、また、学校に美術作品を持って来てもらって鑑賞したりといったやりの方が、実物から感じ取れるという部分で理想的であるには違いない。しかし一方で、実物ではないが、学校で日常的に美術作品に親しみ、興味を持ち、見方や鑑賞することの楽しさを学ぶ体験を多く持つということも、鑑賞力の育成という面で必要な事である。実際に「アートカード」や「授業で使える！鑑賞ガイド」を使った授業を体験することで、作品に興味をもった子どもたちが、実物を見に美術館へ出かけたり、自主的に美術館主催のワークショップに参加したりするという動きもできつつある

地域の美術館にある作品を鑑賞の授業で取り上げることのよいところは、見ようと思えば実物が見られるところである。また、郷土出身の作家の

作品を取り上げることは、図工・美術の学習として重要というだけでなく、郷土に対する誇りや愛着を高めることにもつながり、大きな教育的意義をもつことになる。

このように、地域の美術館との連携をさらに深め、美術作品や教材を積極的に活用しながら、学校で行う鑑賞教育を充実させていければよいと考える。

鑑賞の授業の中身については、言語活動を取り入れた鑑賞活動の題材開発に取り組み、次の5つの視点で考えた。

- 1) 見て感じたことを言葉にする
- 2) 美術作品に身近に接し、親しむ機会を設ける
- 3) 直感的な鑑賞から分析的な鑑賞へという鑑賞のプロセスを重視する
- 4) 鑑賞に楽しく取り組めるように、遊びの要素や友だちとの交流の機会を重視する
- 5) 子どもが視覚や触覚などの自らの身体感覚を働かせて、作品に触れられるようにする

実践授業発表

「アートカードを使ったスピーチ」、「郷土の作家の作品を鑑賞しよう」の実践を中心に、言語活動を取り入れた鑑賞活動について発表する。



■成果と課題

今までは、鑑賞の授業をやろうとしても教材として見る対象となる作品が学校に殆ど無く、鑑賞と言えば児童の作品や教科書の作品を見るのが一般的であった。また、美術の知識や鑑賞の授業の進め方に自信の持てない教師が多く、鑑賞の授業が充分行われていなかったという実態があった。しかし、今は提案のような取り組みによって、改善されつつあり、子どもたちにとって美術館や美術作品が以前より身近になってきたといえる。

今後はこの流れをさらに広めることと、子どもにとって価値ある体験になるような鑑賞の授業を創造していくことが大切であると考えます。

分科会8 よさや美しさを感じとるための「みる」

「親しみのある美術作品を生かす」

静岡県 静岡市立清水第八中学校 永倉 真依子

■提案

本校は静岡県立美術館に隣接しているが、生徒は特別な機会や理由がなければ美術館に足を運ばないのが現状である。生徒たちにとって美術作品の鑑賞は、漠然と難しいとか堅苦しいといったマイナスのイメージがあり、よく分からないという感想ももつ生徒が多い。

そこで主体的・能動的に鑑賞し、鑑賞することを楽しさや喜びを感じられるようにしたいと考えた。また、じっくり見て、発見や感じたことから、分析・発想し考えていく経験もさせたいと思い、今回は「親しみのある美術作品を生かす」を研究課題として、県立美術館ロダン館に展示されている「カレーの市民」を取り上げ、自分たちで解説文を作るという課題を設定した。

ロダン館の「カレーの市民」は一体一体単体で配置されているため、グループで一体を取り上げ、最初にじっくり「みる」活動を行う。その後「街の人々を救うために自らの命を差し出した人物の像」という情報のみを提供する。情報を与えられずに作品を「みる」ことで、ありのままの造形に目を向け、さらに最低限の情報のみを提供することで、それを造形と結びつけていこうと、細部に目を向ける能動的な鑑賞ができると考えた。他者へ発信する解説文を作るということは、納得や共感を生む文を作る必要がある。自らの感じ方を大切にしながら、作品のポーズや表情といった造形から人物を読み取ろうと、感性を働かせて「みる」活動ができ、自分の感じたことを伝える喜びも味わえるものとする。この研究課題に取り組むにあたり、次の2点を研究視点として設定した。

① 学芸員との連携

ここで大切なことは、学芸員が答え合わせのように作品の解説をするのではなく、生徒の主体的な鑑賞活動を学芸員に後押ししてもらえようという関わりを生むことである。学芸員には教員とTTで授業に参加してもらい、生徒の解説文を称揚するコメントや、作品の裏話などを生徒の興味が深まる話をしてもらうようにした。

② 新たな表現価値に気づく鑑賞活動

グループ活動やグループ発表において他者の意見を聞くことは、自分では気づかなかった視点に気づき、さらに深く鑑賞するきっかけとなるだろう。また、解説文を書くということで第三者に発信する新たな立場になることで、自分の中の鑑賞の視点をより明確化し明解に主張しなければならず、より主体的に鑑賞することができると考えた。



■成果と課題

「ロダン館にもう一度行きたいと思った。」最初は「鑑賞なんておもしろくない」そう言っていた生徒の、授業を終えての感想である。また、裸というだけで騒いでいた生徒たちが、なぜロダンは裸の像を造ったのか、自分たちなりの考えをもつことができた。じっくりと作品に向き合い、学芸員との関わりの中で、自分の視点の変化に驚き、最初とは全く違う感想をもてたことに喜びを感じていた。たった数時間の中で、生徒の変わっていく様子が目に見えてわかる授業であった。

今回は解説文を作る前に実際に美術館へ訪れることができた。積極的に学芸員や美術館ボランティアに話しかけ、情報を得ようとする姿や様々な角度からじっくりと鑑賞する姿が見られた。情報を最低限しか提供しないことで、主体的に鑑賞をすることができたと考える。しかし、美術館と連携できない場合の鑑賞方法や、深く追求するためにはどこでどれだけの情報を与えるのが課題になるであろう。

更に、ひとつの鑑賞で終わりなのではなく、鑑賞の力を次なるステップへ繋げていくことも必要だ。今回の鑑賞をした生徒が今後、様々な作品をみる時にはどう鑑賞するのか、今回の鑑賞がどう表現に生かされてくるのか、未来を考えると果てしない期待がもてる。鑑賞は、ひとつの鑑賞授業で終わらせず、次の表現や鑑賞の活動に繋がり、更に広がっていくことが大切だと考えている。

分科会 9 よさや美しさを感じとるための「みる」

「美術文化の理解」

神奈川県 横浜市立新田小学校 井田 善之

■提案

「しっかり教え、しっかり引き出す指導に基づいた鑑賞活動の在り方」

図画工作科、美術科の基本的な指導方法は、子どもの習得した知識・技能(しっかり教え)を活用して、自ら発想や構想をしたり、自分の方法で表したり、自分の見方で感じたりして、主体的に表現の主題に向かうようにする(しっかり引き出す)ことであると考え。子どもの主体的な創造活動は、その表現主題を追究する探究的な活動ととらえることができる。このような学習活動を実現するために、横浜市図画工作科、美術科研究会では①出あいの工夫、②場の設定の工夫、③共感的支援の工夫の3点を重要な視点としている。また、それぞれの題材について小学校から中学校における9年間の中での位置付けやつながり、系統などをしっかりとおさえて指導するために④小中一貫の視点を設定している。

本題材では、横浜版学習指導要領に示されている「学習の主題」を基に「鑑賞の活動」を実践した。「しっかり教え、しっかり引き出す指導」に基づいた鑑賞活動の在り方を考えたい。

① 出あいの工夫

魅力的な出あい(題材、材料、表現方法、人など)を設定すること

図画工作科、美術科の学習は、まず子どもたちが題材と出あう。その題材を通して出あう「もの」「こと」「人」などによって、活動へ向かう意欲が引き出され、資質・能力がはぐくまれていく。

② 場の設定の工夫

子どもの力を引き出す効果的な場(学習環境)の設定をすること

活動を行う場所に必要な情報が提示されていれば、いつでも子どもは確認することができる。材料・用具が整理して置いてあるだけで意欲が高まり、発想が広がっていくだろう。相互鑑賞し、お互いに高めあうことができるような座席の隊形もまた大切である。当然、安全面には十分配慮する必要がある。

③ 共感的支援の工夫

個に応じて、対話や相互鑑賞などによる共感的支援をすること

学習活動の主役である子どもたちを共感的に支援していく。試行錯誤している姿をとらえ、励ますことやよさを見付け具体的に伝えていくことなど、対話や相互鑑賞を生かして、子どもの意欲を継続的に支えていく。

④ 小中一貫の視点

9年間の連続した学習活動の流れを意識して指導の工夫をすること

子どもの9年間の育ちを見通して各学年の題材の内容、配列を決定することや目の前の子どもの実態をしっかりと把握した上で「学習の主題」に基づいた題材の計画と指導を行う。どの学年のどの題材で子どもたちがどんな経験をして本題材に至るのか、あるいは、その後どのような題材でさらに資質・能力を高めていくのか、点としての現在の指導を大きな流れの中でとらえて指導に生かす。

■成果と課題

【成果】

本題材において、子どもたちにとって親しみを覚える内容の美術作品を選び、提示できたことは子どもたちの作品に対する興味・関心を引き出すことにつながったといえる。また、根拠をもって自分の思いを言葉に表し、他者に伝える活動を通して、子どもたちは自分の心と向き合い、より深く対象をみることができていた。子どもたちの資質や能力が発揮されている場面を多く見取ることができた。グループの話し合いでは、一人ひとりの思いを「伝える」「聞く」ことを大切にした。子どもたちはお互いの見方、感じ方の違いに面白さを感じていた。また、自分の見方・感じ方が大切にされ、他者に認められることが鑑賞することの楽しさ、興味をより深めていたといえる。

【課題】

「自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取る」(横浜版学習指導要領図画工作科、美術科B鑑賞(1)3・4学年より)

身近にある美術作品という点では、子どもがどこかで見たことがあるという身近さや、本題材のように「顔」に対象を絞ることによって、自分の経験と重ねて見ることができるといったことが大切になるだろう。鑑賞の能力を高めるために対象については子どもの実態によって十分検討して選びたい。今後、全国的な多くの実践の中でよりよい情報を共有できるとよい。

分科会 9 よさや美しさを感じとるための 「みる」

「美術文化の理解」

栃木県 那須烏山市立烏山中学校 渡 辺 富士雄

■提案

○研究課題「美術文化の理解」

日本や諸外国の美術文化に対する興味・関心を高め、それぞれの美術文化を大切にしようとする気持ちを育てることを考える。

○研究の視点

- 1 身のまわりのものから美術文化を探る
- 2 美術文化の相違点やよさに気づく鑑賞活動

○ 研究の視点を踏まえ、身近な美術作品として伝統工芸のわら細工を取り上げた。農耕を中心として発達した歴史の中で、日本伝統の工芸品がたくさん育まれてきた。その中に麦わらを素材とした工芸品も各地で伝承されてきた。日本の美術文化を考える上で、このような伝統工芸は重要な意味を持つ。

栃木県東部八溝山系の地域では、かつて那珂川を中心とした稲作地帯と山間部を中心にした麦作が中心であった。当然、生活の中にわらの存在は欠かせなかった。わら細工は、地方の風土や特色によって形を変え身近な素材として、生活用品や工芸品として受け継がれている。

また、世界の麦作地域に目を向けてみると、クリスマスのオーナメントや人形など特徴のあるわら細工があり、日常の楽しみの中に生かされていたことがわかる。

そこで、身近な素材として親しまれてきた麦わら細工を通して、日本や諸外国の美術文化に対する興味・関心を高め、それぞれの美術文化を大切にしようとする気持ちを育てたいと考えた。

学習指導要領では、第2学年及び第3学年の内容B鑑賞に於けるオの「美術作品や生活の中の造形に取り入れられている自然のよさや美しさ、素材の生かし方などを感じ取り、自然や生活と美術との深いかわりを理解すること。」の内容となる。

また、諸外国との比較により、表現の相違と共通性に気付かせ、それぞれのよさや美しさを味わわせることで、美術文化を大切にしていこうとする心情につながると考えた。

【授業の流れ】

- ①クリスマスオーナメントを見せる
 - ・わらの造形的な美しさに気づかせる
 - ・造形と生活が結びついていることを理解させる
 - ・外国のものであることを知らせる
- ② 日本の作品を見せる（わらの編み細工 馬等）
 - ・外国と比較させながら日本の美術文化に関心を持たせる
 - ・わら工芸の共通点（良さ）と違い（文化）に着目させる
 - ・日本の美術文化の良さを感じ取らせる
 - 生活に根ざした身近な材料で、美しいものや生活を豊かにするものを伝えてきた。
- ③ 日本のわら細工に挑戦しよう
 - ・わらの特徴を考える
 - ・基本の編み方を理解する
 - ・自分のアイデアでオリジナルの形をつくる
- ④ まとめ



■成果と課題

麦わらという素材を通して、生活の中で育まれてきた美意識や創造性に触れる機会となり、身近なところから美術文化に関心を持つことができた。そして、身近な生活や地域にある日用品、美術作品に目を向けることで、生徒の現代的な価値観と照らし合わせて、伝統や文化に対する理解とそれを大切にしようとする気持ちを少なからず育てることができたと感じている。

また、諸外国における同素材を利用した作品を考えることで、「みる」ことに広がりが出たと思う。

今後は、様々な視点から作品を味わわせ、「みる」目を養うことで、美術を愛好する心情を育てたいと考えている。

分科会 9 小学校における

「美術文化」の扱いを探る

静岡県 袋井市立袋井北小学校 近藤 郁子

■提案

～「浅羽方言カルタを作ろう」の実践をもとに～

新学習指導要領の改訂では、改正教育基本法の趣旨を踏まえて「伝統・文化に関する教育」の充実・改善が図られている。図画工作科・美術科・芸術科においても、平成20年1月の中央教育審議会答申における改善の基本方針では、「美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。」と述べられている。それを受けた、図画工作科の改善の具体的事項では、「暮らしの中の造形や我が国や諸外国の親しみのある表現などに関する学習では、作品などのよさや美しさを主体的に味わったり感じたりすることを重視する。」とある。

しかし、現行の学習指導要領上では「美術文化」という位置づけについて、高学年にならない限りあまり意識してこなかったという反省をもった。また、小学校のどの学年においても単独の鑑賞活動ができるようになり地域の美術館の活用も可能となったにもかかわらず、小学校段階では、あまり実施されてこなかったと感じている。

そこで、「美術文化」という切り口で、過去の自分の実践を見直し分析していくことにした。実践している時には気づけなかった「美術文化」の扱いを知ることで、同じ題材においても新たな展開等が見つかるのではと考えた。そして、今後の小学校における「美術文化」の扱いから指導の改善ができたらと考え、「小学校における『美術文化』の扱いを探る。」というテーマを設定した。

「美術文化」については「浅羽方言カルタを作ろう」から分析することとした。この実践は、3年生での総合的な学習での方言や方言カルタづくりの学習を経て、地域の方とのかかわりやつながりが生まれ、5年生で本格的にカルタづくりの製品化に向けての製作に発展していった事例である。この実践を本分科会の研究の視点1「身のまわりのものから美術文化を探る」と視点2『「美術文化」の相違点やよさに気付く鑑賞活動』で分析した。

■成果と課題

「方言カルタ」は、当初、美術文化を主題とし



地域の方とのかかわりを通してカルタの図案を考える様子

て構成した実践ではなかったが、多くの偶然が重なり、図画工作で「カルタをつくり出す」活動が結果として、子どもたちが地域の伝統や文化を学び、そのよさを実感することができた。分析すると自分が意図してないところで、子どもたちは確かに伝統や文化を学んでいた。偶然学びが深まったのではなく、そこには、いくつかの要素があったと考えられる。

① 地域とのかかわり

学校が地域のことアンテナを高くし、地域の方を学校に呼び入れたこと、そこでの子どもとの交流により、双方向の力が働き思いを共有できた。

② スパイラルな取り組み

教科や領域等を超え、学年を超えての取り組みに発展した。子どもが繰り返し伝統や文化にふれる鑑賞の機会があった。

③ 図画工作の「つくり出す」活動に絡めたこと

単独の鑑賞ではなく、子ども自らが製作することで、表現と鑑賞の一体化が図られた。

以上のような要素が重なり、多くの活動と学びが結合し地域の伝統や文化の理解となっていく。また、過去の実践だけでなく、現在取り組んでいることも、「伝統や文化」という視点で見ると、深めていける要素がたくさんあることにも気付いた。また、題材だけでなく、紙、粘土等、普段使い慣れている身近な素材からでも、指導者が意識すれば、地域の文化や日本の美術文化に積極的に関わることができることにも気付いた。

小学校における伝統や文化については、他者と社会との関係だけでなく、自己と対話しながら自分を深めていくことにもなり極めて重要であると思われる。各小学校では、教科・領域等で地域に出かけての学びを企画・実践している。子どもたちの活動を通して、文化を継承し、新たな文化をつくり出していることを実感させる場の必要性・重要性を感じた。

分科会10 「みる」ことと言語活動を考える

「みる」ことと言語活動を考える

長野県 長野市立吉田小学校 長崎 至 宏

■提案発表内容の要旨

本校、長野市立吉田小学校では2008年より、5・6年生のクラスが中心になり、夏休みまたは2学期の休日2日間、「よしだアートプロジェクト」と題し、学校を美術館にしよう、という取り組みを行ってきています。これは、市内の4校（櫻ヶ岡中、川中島中、信更中）が会場となつて行った「ながのアートプロジェクト2008」から始まったプロジェクトの中の1つで、櫻ヶ岡中学校の中平千尋先生を委員長としたNプロジェクトの取り組みです。

「よしだアートプロジェクト2008」では、人と人のふれあいをアートで表現する。みんなの笑顔が集まれば、何だってできる。笑顔のパワーは無限大！という子どもたちの言葉から、テーマは、『スマイル スマイル』笑顔のパワーは無限大！としました

子どもたちのプロジェクトは、全部で9つあり、それぞれ4～6人ほどのグループ毎に企画をし、いろいろなアイデアを出したり、必要な材料を集めたりしながら、地域の方や作家の方々と一緒に作り上げていきました。その中のメイン企画、「スマイルアートプロジェクト」は、学級全体で取り組みました。道行く人達の笑顔の写真を使って作るモザイクアートです。6月13日と7月14日。わたしたちは、長野駅を利用するたくさんの方々に声をかけて、笑顔の写真を撮らせていただきました。ここでも、思いが伝わることの喜びや、人とふれあうことのうれしさを子どもたちは感じたようです。外国から来た観光客の方にも声をかけました。

「よしだアートプロジェクト2009」では、5学年全体で取り組み、プロジェクトの数も16に増えました。当日は、1日目2日目合わせて700人以上の方々が、県内外から見に来ていただきました。子どもたちはキッズ学芸員となり、来ていただいたお客さんに対して自分たちの作品について説明をしたり、質問に答えたりしました。受付や、案内なども子どもたちが行いました。

■成果と課題

今回のアートプロジェクトの活動は、主に総合

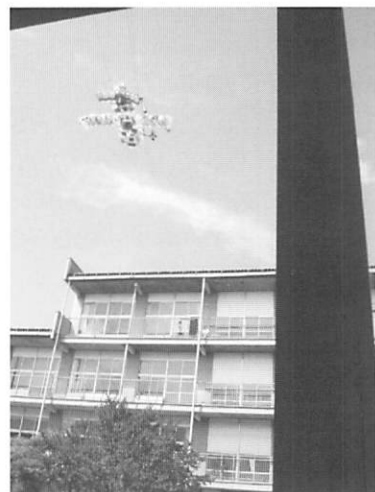
的な学習の時間を使った取り組みではありますが、図画工作科の立場から見たときにも、大きな成果があったと思っています。

第一に、子どもたちは図工的な発想、特に、思いついたことを試し、場所に働きかけ、思うままに表す造形遊び的な発想から「アート」を捉えていたと思います。絵本やトリックアートの「形」や「色」、サンドアートの砂の「質感」、ブラックライトの「光」、ピタゴラ装置の「音」、映像の「動き」など、様々な造形要素を、自分たちなりの方法で表そうとしていたと思います。用いた材料も、子どもたちが表したいことに合わせて準備したり、その特徴を生かして使っていました。

また、そうした自分の作品を他者に評価してもらうことによって、自分の表現に自信を持つとともに、次への活動意欲が高まっていきました。見ってもらう、認めてもらうためには、作品の展示方法にも気を配る必要があるということに気づき、併せてどんな説明をすればいいのかを考えることにもつながりました。

これらは、まさに「つくりだす喜び」そのものであったと考えます。活動自体は大変大規模なものであり、どの学校でもまねできることではありません。しかし、日々の図画工作の一題材に置き換えたとき、子どもたちの柔軟な発想を生かすことのできる題材設定や、製作後の鑑賞や展示のしかたなど、参考にさせていただけることはたくさんあるのではないのでしょうか。

学校を取り巻く環境でさまざまな問題が語られる今、図工・美術教育が子どもたちにできること。それは、芸術とのふれあいから子どもたちの創造力を刺激してあげることだと思います。表現や鑑賞といった、図工・美術教育を基軸に子どもたちの豊かな心を育てていきたいと思います。



「みる」ことと言語活動を考える

長野県 千曲市立戸倉上山田中学校 中 平 紀 子

■提案

とがびアートプロジェクト

～中学校を美術館にしよう～

1 とがびアートプロジェクトとは

戸倉上山田中学校では、年に2日間、学校全体が美術館になる。戸倉上山田びじゅつ中学校（通称：とがびアートプロジェクト 以下、とがび）は、生徒たちが、キッズ学芸員となり、展示の内容を考えたり、作品の解説・案内をする。

県内外の美術家とのコラボレーションをしたり、美術館から作品を借りて展示、作家として作品を制作したりする。また、受付やポスター、パンフレット制作まで生徒が行う「学校を美術館にしよう」プロジェクトである。

2 はじまりは「美術を好きになってもらいたい」

美術の時間数が削減される中、生徒に美術の魅力を伝える方法はないかと考えていた。表現や鑑賞の良さを伝えるならば、美術教師ひとりの力だけではなく、プロの作家や学芸員と生徒に協力してもらうことで、直接、美術の楽しさや魅力が伝わるのではないかと考えたのがきっかけである。プロの作家、信濃美術館学芸員も、賛同してくれ、「美術を好きになってもらいたい」という共通の願いのもとこのプロジェクトがはじまる。

3 様々な分野、人々が取り組んだアートの出現

画家とキッズ学芸員、小学生と保育園の子どもたちのコラボレーション。作家の指導による地元の年配の方々とキッズ学芸員のコラボレーション。戸倉上山田温泉ならではの素材、物質生かしたキッズ学芸員と作家とのコラボレーション。美術館作品をキッズ学芸員が展示企画し、解説する解説。対話型鑑賞。「とがび」を経験した卒業生が進学した高等学校3校の美術部の参加。



■成果と課題

生徒たちは、『とがび』のために地域や社会の中にある様々な力を使いこなしていった。美術のために、悔しい思いをしたり感激したりできたのは、関わるものや人が大勢いたからだろう。自分たちの作品の感想を直接聞き、感想を記入してもらい、作品を修正していく。美術館作品の対話型鑑賞では、学芸員から指導をされ、当日は、ひとりの来校者に対して、ひとりの生徒が対話をした。「この作品は、離れてみるのと近づいてみるのと違うように感じますが、どんなふうに見えますか。」などキッズ学芸員自身の感じ方で説明は行われた。「本気でやらなくては人にも伝わらないことがわかった。すごく責任を感じて大変だったけど、やったぞという感じだった。」後でキッズ学芸員が語ってくれた言葉である。

とがびに参加した卒業生は言う。「もともと美術には興味がありませんでした。でも、『とがび』に参加して作家さんの自由な表現に出会って自分の表現していいんだと思うようになりました。そうすると、逆に色々なものを考えるようになった。美術をつまらないという人は、『作品を作る意味』が分からないのではないのでしょうか。僕は『とがび』で美術が『世間やさまざまな人にメッセージを伝える』ことだとわかり、美術が好きになったのだと思います。」この言葉は、まさに『とがび』で生徒に伝えたかったことである。

アトリテラシーを高めることが、これからの美術教育に必要なのではないだろうか。

「みる」ことと言語活動を考える

茨城県 筑西市立下館南中学校 落合 睦 美

■提案

学習指導要領が新しく改訂され、全教科を通して言語活動の充実が図られた。美術科では形や色が、伝えるための「言語」となることが考えられるが、最大の特徴は伝え合う言語活動がことばだけでなく視覚を伴ったコミュニケーションとして成立する点にあるのではないかと考える。また、この美術科ならではの特色が大きく学びに反映できる可能性を秘めている学習のひとつに、見たことや感じたことを伝え合う鑑賞の授業があげられる。今回の提案では鑑賞学習で身につけさせたい「見る目・感じる心・伝え合う力」の育成をテーマとして掲げながら、アイマスクを使った鑑賞の授業を展開し、美術科における言語活動の在り方について追求していきたい。

(1) 鑑賞教育の現在と問題点

表現と鑑賞の活動は表裏一体であり、現在では独立した鑑賞活動はもちろん、導入の段階で鑑賞を取り入れたり、制作後に活動を振り返る手段として取り入れたりと様々な取り組みがなされている。しかし、実際の授業では鑑賞の活動が子どもの感動や作者の気持ちを追体験することが主体であり明確な鑑賞方法として確立できないあいまいさがあるのも否めない。

(2) アイマスク鑑賞について

一昨年、茨城大学において鑑賞教育の研修をさせていただける機会があり、その中でアイマスクを使った鑑賞法を体験した。3人ひと組で行うこの鑑賞は、まず、1人がアイマスクをつけて何も見えないようにする。残りの2人は説明者となり、アイマスクの鑑賞者に分からないように予め鑑賞する絵画作品を決めておき、絵の様子を言葉で伝え、アイマスクの鑑賞者はその説明をもとに絵を想像していくというものであり、この鑑賞法はもともと視覚障害を持つ人にも美術館で作品の鑑賞を楽しんで欲しいといった考えから考案された。

説明者・鑑賞者ともに作品の本質から離れ

ずに鑑賞できるという利点がある。

(3) 言語活動との関連

アイマスク鑑賞の特色は、説明者と鑑賞者が互いに質問や説明をしたり、説明に補足をしたりするといった生徒相互のコミュニケーションの場面があるという点である。この場面の展開を工夫して組み立てることにより、伝え合う力や感じたことや思いを表現する力を伸張させる手立ての一つになると推測する

(4) アイマスク鑑賞の授業実践について

①オリエンテーション（グルーピングと準備）

【準備】○アイマスク ○資料集 ○ワークシート ○プロジェクター ○実物投影機 ○スクリーン

【用意】○グルーピング（4～5人）
○鑑賞者と説明者の決定

②鑑賞

○絵の説明 ※グループ内で順番に行う



友達の説明を聞きながら、絵を想像します。説明に補足を入れたり、質問したり・・・

○各グループ毎の発表



説明者と鑑賞者の協力の成果を全体で発表
思わず拍手が起こります。

■成果と課題

実践から感じ取ることができた手応えは普段の鑑賞活動よりも詳しく深く鑑賞できた点である。また、グループ内で協力しなければ正しく絵を伝え、受け取ることができないこの鑑賞法は自然に生徒同士のコミュニケーションの活性化が期待できることがわかった。課題は適切な評価方法である。説明者と鑑賞者、互いの特質をさらに分析・研究し、適切な評価方法を確立させていきたい。

「みる」ことと言語活動を考える

静岡県 静岡市立東中学校 久保田 優子

■提案

1 テーマについて

言語活動は社会生活を営む人間にとって欠くことができないコミュニケーション手段である。美術においては、みることで感じ取った色・形・イメージ等の特徴などを形や色を使って伝え合うことから、見方や感じ方を広げ、新たな視点に気づき、表現を深めてきた。

「言語活動の充実」とは、「言葉」の充実により、「造形の能力」が豊かになっていくことである。「みる」ことと言語活動の相互作用によって作品の見方を深める鑑賞授業を目指して実践した。

2 題材について

例えば、食卓に「キッコーマン卓上醤油差し」がある。その形態は、プロダクト・デザインの金字塔であり、多くの人がそのよさを感じている。ロングセラー50年という事実やグッドデザイン賞がそれを物語っている。

ところで多くの人が感じているよさとは何か？自分が感じているよさとはどんなものなのか？あらためて聞かれると、明確に答えることができない。もしかすると自分の気がつかないよさがあるかもしれない…

3 授業実践

生徒たちは、造形を豊かにしていく途上にある。多くの造形に接し、自分はどんな色や形に惹かれるのか経験しつつある。また、色や形の基本的な性質を学びながら、自分らしい表現を模索している。

そのような彼らが、様々な感じ方や考え方に接することは、重要な経験になるはずである。同じ感じ方考え方に接したときは、自分に自信をもつとともに深く感じ考えることができる。また、異なった感じ方考え方に接したときは、広い視野を得ることができる。新しい感じ方に共感したり、その広がりの中であらためて自分の感じ方考え方を確かめることもできる。

そのためには、同じものを見ている隣の生徒が、どんなことを感じどう考えているのかを、言葉で伝え合い、知り合うことが大切になってくる。互いのすべてをわかり合えることはできないけれど、

言葉が豊かになってくれば、ものの感じ方や考え方も豊かになっていくはずである。

本題材では、価格が同じ6種類の醤油差しをめぐって、生徒たちがKJ法的な作業をしながらそれらのよさ(「いいなあ」)を言葉で語り合っていく。さらに、各班のグッドデザイン賞を決定し、明確な根拠を挙げて全体に説明し合う場を設定した。

班の中あるいは学級全体を説得する過程で、様々な感じ方やその根拠に接し、自分なりの感じ方考え方をつくっていく題材として構想した。

■成果と課題

生徒は、自分が「いいなあ」と感じたことを何とか言葉にしようとする。その際、実際に注いでみた経験や開発担当者のインタビュービデオ、世界的なヒット商品になったことや高校の記念品になったことなどの情報提供を参考にして言葉を紡いでいく。

さらに、互いの発言を絡め合いながら、より説得力のある言葉を模索していく。生徒たちから次のような発言が出された。

○キッコーマンは注ぎ口がビチャビチャに液だれすることがない。形がそうできているのかな…
透明だから醤油の残りの量もわかり便利だね。
○文字が黄色で醤油入っていると字が映える感じがする。赤いフタも醤油の色に合っていてきれい。

○下が広くて安定感がある。これなら倒れないよね。上の細いところは持ち易い。

話し合いの過程で6種類の醤油差しを色、形、素材、持つ、注ぐ、すわり、量に分類整理する項目の言葉になっていった。身近にある醤油差しがこれほど意図的にデザインされた物であることを言語活動を通じて生徒たちは学び、物の見方も深まったと思う。最初にモダンなデザインの醤油差しがよいと思っていた生徒が、根拠をもって話し合ったり、批判することによって見方や価値を広げることができた。今後、「みる」ことと言語活動の発展性をさらに探っていきたい。



資 料

関東甲信越静地区造形教育研究大会のあゆみ

回	期日	開催地	大会主題
1	昭36.11	東京都中央区	図画工作科の実践研究発表大会
2	37.11	山梨県甲府市	たくましい心を育てる造形教育
3	38. 8	新潟県高田市	造形教育の現状を確かめ、これからの志向を見出そう
4	39.11	○栃木県宇都宮市	造形教育の実践を通し豊かな個性を育てる。
5	40. 8	東京都台東区	科学と美術教育
6	41. 6	千葉県千葉市	子どもの調和的な育成を目指す造形教育
7	42.10	○新潟県新潟市	人間形成を目指す造形教育の現実的課題と解決策
8	43.11	茨城県水戸市	主体的活動を目指す造形教育の推進
9	44.10	群馬県高崎市	個性豊かな表現活動をねらう造形教育
10	45. 7	埼玉県浦和市	今後の造形教育の基本的内容とその指導の研究
11	46.10	○静岡県静岡市	たくましい創造力を育てる造形教育
12	47. 6	山梨県甲府市	造形教育のたしかな授業をめざして
13	48. 6	神奈川県横浜市	情報化時代における造形教育
14	49. 8	長野県松本市	人間復活の美術教育
15	50. 6	栃木県宇都宮市	造形教育における子どもと教師
16	51.11	千葉県千葉市	造形教育における今日的課題の解明
17	52. 6	茨城県水戸市	明日をきりひらく子どものための造形教育
18	53.10	○埼玉県浦和市	造形教育の本質にせまる実践はどうあるべきか
19	54.11	群馬県前橋市	豊かな人間性を育てる造形教育
20	55.11	静岡県沼津市	創る喜びを確かめる造形教育 ～授業を通してつくる喜びにひたらせよう～
21	56. 6	○新潟県長岡市	生きているあかしの表現 ～創る喜びのもてる造形学習～
22	57.10	山梨県甲府市	創るよろこびを味わう造形教育
23	58.10	神奈川県横浜市	明日をになう子どもの造形教育
24	59.10	○長野県上山田市	心おどらせて取り組む造形
25	60. 6	東京都豊島区	素材と創造者たち ～教育における造形教育の重大性を問う～
26	61.10	群馬県桐生市	未来をになう子どもの造形 ～次代に生きる創造の高まりを求めて～
27	62.10	千葉県千葉市	子どもの心を掘り起こす造形教育
28	63.10	新潟県上越市	つくる意欲・感性・・・今、子どもたちと ～創造の喜びを育む造形教育～
29	平成10	静岡県浜松市	子どもの感性を研く造形教育 ー自らに素直な表現を求めてー
30	2.10	茨城県水戸市	豊かに、人らしく、たくましく
31	3.11	埼玉県浦和市・川口市	感性を高め創造する力を育む造形教育
32	4.10	山梨県甲府市	豊かな感性つくる喜び、生きる力
33	5.10	栃木県宇都宮市	豊かな心、伸びる個性、ひらく明日
34	6.11	神奈川県横浜市	いま、さらに 豊かな感性・創造のよろこびを
35	7.11	長野県飯田市	いのちにあふれる造形活動 ～つくるよろこび 自分らしさの表現を求めて～
36	8.10	○東京都中野区	人間・表現・環境
37	9.11	群馬県前橋市	自分らしい造形活動を保障する教師の役割
38	10.11	千葉県千葉市	自分らしい発見・思いっきり造形
39	11. 8	○埼玉県大宮・浦和市	自分 "彩"発見 ～「自分さがしの旅」をしつづける子どもの造形活動～
40	12. 8	○静岡県富士市	開く造形教育に 生き生き交流
41	13.11	茨城県水戸市	つくりだす力 かがやき いきる感性
42	14.11	新潟県新潟市	生きる力を培う造形教育 大地と大河と日本海からのメッセージ ～かわり 発信 還元 そして 自信へ～
43	15.10	山梨県甲府市	「自立への道すじ」 ～豊かに感じ、自分を見つめ、造形に挑む～
44	16.11	栃木県宇都宮・鹿沼市	ハート・ART ～風かよう夢広場～
45	17.11	○神奈川県横浜・川崎市	つくり続けるよろこび、それは生きるよろこび ～色と形のメッセージ I から WEから～
46	18.11	○長野県長野市	私っていいな!! "いろ・かたち" 生きあい 学びあい
47	19.11	東京都文京区	人間形成としての造形・美術教育
48	20.1 1	群馬県高崎市	自分らしさ つくりだす力 いきいき造形
49	21.11	○千葉県千葉市	きらめく感性 ときめく思い うみだせアート
50	22.08	静岡県静岡市	つくりだす喜びを培う造形美術教育 ～「みる」ことの再考を通して～

○印は全国大会併催

関東甲信越静地区造形教育連合規約

1. 本連合会は、関東甲信越静地区造形教育連合といい、事務所を理事長所属の所に置く。
2. 本連合会は、関東甲信越静地区の造形教育の振興を図り、各都県の親睦連絡を図るを目的とする。
3. 本連合会は、東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、栃木県、埼玉県、群馬県、山梨県、長野県、新潟県、静岡県下の各学校種別の造形教育団体をもつて組織する。
4. 本連合は、その目的を達成するために、次の事業を行う。
 - (1) 本連合会としての研究協議
 - (2) 各都県間の研究活動の協力助成
 - (3) 造形教育振興を目的とする他の団体への協力
 - (4) その他連合が必要と認めた事業
5. 本連合会に次の役員を置く。

(1) 理事長	1 名	(2) 副理事長	2 名
(3) 理事	若干名	(4) 評議員	若干名
(5) 監事	3 名	(6) 事務局長	1 名
(7) 顧問	〔前年度大会委員長または運営委員長〕		
6. 役員の仕事は次のとおりとする。
 - (1) 理事長は本連合を代表し、業務を処理する。
 - (2) 副理事長は理事長を補佐し、業務の処理にあたる。
 - (3) 理事は本連合の運営にあたる。
 - (4) 評議員は理事を補佐し、各都県の研究団体との連絡運営にあたる。
 - (5) 監事は本連合の会計並びに事業を監査する。
7. 役員を選出は次のとおりとする。
 - (1) 評議員は各都県下の参加団体ごとに4名以内を選出する。
 - (2) 理事は各都県下の参加団体の代表者をもってあてる。
 - (3) 理事長・副理事長は理事の互選によって決める。
 - (4) 監事は理事会において、評議員の中から選出する。
8. 役員の仕事は1ヶ年とし再任を妨げない。
9. 会議は次の二つとする。いずれも出席者の合議によって成立し、理事長がこれを招集する。
 - (1) 評議員会 年1回以上。
 - (2) 理事会 必要に応じて開く
10. 本連合の経費は各都県の会費及び分担金、その他の収入をもってあてる。
 - (1) 会費 各都県ごとに年額3,000円・研究大会分担金10,000円
11. 本規約の改正は評議員の決議による。
12. 本規約についての細則は評議員会の議を経て定める。

本規約は昭和43年4月20日より施行する。

本規約は昭和58年10月27日に改正し同日を以て施行する。

昭和62年6月13日、会費2,000円に改正し同日を以て施行する。

平成1年7月3日、監事3名に改正し同日を以て施行する。

平成2年10月25日、会費3,000円に改正し平成3年度を以て施行する。

編集後記

本市では、昭和46年以来の関東甲信越静岡地区大会となり、合併後では初めての大きな大会となりました。造形教育の大切さを再認識するとともに政令都市静岡市の気概をもって2年に及ぶ工程を経て、ここに紀要を校了することができました。

大会紀要の編集に際し、文部科学省をはじめ、関係諸団体の皆様方、そして関東甲信越静岡地区の造形教育に情熱をもって、たずさわっていただいた諸先生方のご協力とご支援に心よりお礼申し上げます。

(記録編集部)

平成22年度 第50回関東甲信越静岡地区造形教育研究大会 静岡大会
平成22年度 第37回静岡県教育研究会美術教育研究部夏季静岡大会

発行日 平成22年 8月 9日

発行者 関東甲信越静岡地区造形教育連合

理事長 牧井直文

関東甲信越静岡地区造形教育研究大会静岡大会

実行委員長 澁谷隆史

事務局 静岡大会 事務局長 宮田和彦

静岡市立城山中学校

〒421-0135 静岡県静岡市駿河区小坂二丁目3番地

TEL 054-258-4646 FAX 054-257-8758

印刷所 東海鉄道印刷株式会社

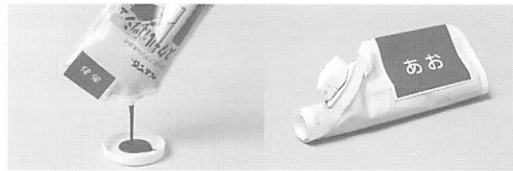
協贊廣告

さまざまな素材に着色できる
共同用耐水性樹脂えのぐ



水で薄めて使用できる、アクリル樹脂系不透明水彩えのぐ
木、段ボール、布、発泡スチロール、石、ペットボトル、
空き缶など、さまざまな素材に着色できます。

省資源、ゴミの軽量化を考えた
軽量コンパクトパウチ容器



耐水性アクリルえのぐ

スクールガッシュ

普通色:全24色 各¥924 (本体価格¥880)
 蛍光色:全6色 各¥1,575 (本体価格¥1,500)
 きん: ¥1,890 (本体価格¥1,800)
 ぎん: ¥1,680 (本体価格¥1,600)

12色セット(普通色) ¥11,088(本体価格¥10,560)

普通色 400ml入り
 金・銀・蛍光 200ml入り

開隆堂の図工・美術科図書教材

新学習指導要領対応 よくわかる図画工作科『評価』のしかた

佐々木達行・小林貴史 編著



低学年/中学年/高学年 全3冊
各 B5判/96ページ/カラー
定価各 2,415円(本体 2,300円)

児童の作品や活動の写真を120点以上掲載し、新学習指導要領の内容をイメージしやすく示しました。

第8章では、図画工作科の指導での悩みや疑問18項目をワンポイント解説しています。

新学習指導要領を読み解く よくわかる図画工作科学習指導要領

ビジュアル解説 授業への生かし方

藤澤英昭 監修 石賀直之・西村徳行・三澤一実 著

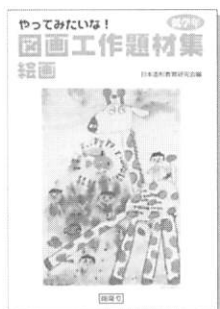


B5判/96ページ/カラー
定価 2,415円(本体 2,300円)

「図画工作科の『評価』はわかりにくい」という声に応えました。

タイプの異なる3~6名の児童の授業での活動過程を追い、カラー写真で示すとともに『評価』のポイントをわかりやすく解説しました。

やってみてほしい！ 図画工作題材集 絵画 全3巻



低学年 A4判 64ページ/カラー
定価 2,100円(本体 2,000円)

中学年 A4判 64ページ/カラー
定価 2,100円(本体 2,000円)

高学年 A4判 80ページ/カラー
定価 2,310円(本体 2,200円)

「題材のねらい」「題材の観点別評価内容」「学習のながれ」の順で、わかりやすいページ構成です。

用具・材料も明示、写真で手順がわかります。



美術図書教材 新美術表現と鑑賞



A4判 160ページ/カラー
定価 720円(本体 686円)

表現のための基本的な技法の学習と、作家作品の鑑賞が1冊でできる便利な美術資料集です。

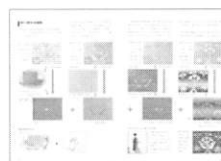
制作の手順や用具の使い方をていねいに紹介しています。巻末14ページの年表で、日本・アジア・西洋の美術史を比較しながらコンパクトに学べます。

図画工作の基礎基本用具・材料のあつかい方

低学年/中学年/高学年 各 B5判/96ページ/1~4色
定価各 2,100円(本体 2,000円)

クレヨン・パスの基本的な扱いから、いろいろな技法をていねいに解説しています。児童の興味・関心を形にするこの1冊！

▼高学年「彫り進み木版画」



▲低学年「クレヨン・パスの使い方」



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1丁目13番1号 TEL 03-5684-6118 FAX 03-5684-6155

◎発行物のご案内はホームページをご覧ください。
<http://www.kairyudo.co.jp/>

これからも、 美術教育とともに。



「図画工作」教科書
(昭和36年発行)



(平成17年発行・現行本)



(平成23年度用 新版)



「中学図画工作」教科書
(昭和31年発行)



「中学美術」教科書
(平成18年発行・現行本)



「高校美術」教科書
(昭和32年発行)



(平成19年発行・現行本)

①7 未来をになう子どもたちへ

日本文教出版

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

日本文教出版株式会社

東京本社 〒165-0026
大阪本社 〒558-0041

東京都中野区新井1-2-16
大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL:03-3389-4611
TEL:06-6692-1261



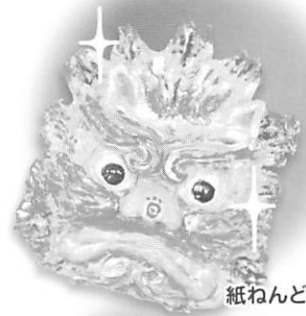
サクラ つやだしニス **水溶性**

高光沢タイプ

光沢感45%アップ! 水にも強い!

(当社比)

- きれいな透明感のあるツヤを持つ作品に仕上がります。
- 乾燥前の筆や道具が水洗いできますので取扱いが簡単です。
- 乾燥後は耐水性になり、水に濡れてもニスや絵具が溶け出しません。
- 有害なベンゼン、トルエン、キシレンを含まず、安全性の高いニスです。



紙ねんどに



優れた耐水性!



野外もOK!



牛乳パックに

ペットボトルに



つやだしニス 1L



つやだしニス 500ml



つやだしニス
うすめ液 250ml



スプレータイプも
あります!

〈姉妹品〉
サクラ 工作ニス スプレー 100ml・300ml

サクラつやだしニス1L
KV1000N
¥2,877 (本体価格¥2,740)

サクラつやだしニス500ml
KV500
¥1,659 (本体価格¥1,580)

サクラつやだしニスうすめ液250ml
KVT250
¥735 (本体価格¥700)



株式会社 サクラクレパス

大阪 〒540-8508 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 TEL(06) 6910-8800 (代)

東京 〒111-0051 東京都台東区蔵前3-20-2 TEL(03) 3862-3911 (代)

名古屋営業所 (052) 991-7641 (代) 広島営業所 (082) 263-9868 (代)

九州営業所 (092) 474-1182 (代) 仙台営業所 (022) 374-3860 (代)

札幌営業所 (011) 622-1720 (代)

http://www.craypas.com

お客様相談室 (06)6910-8818 [土・日・祝日・弊社休日を除く 9:00~12:00、13:00~17:00 受付]

先生方の **アイデア** お作りします

見本制作致します、お気軽にお問い合わせ下さい。

美術教材 製造・販売

矢野教材社

〒420-0941 静岡市葵区松富 4-1-54

TEL (054)653-0222

FAX (054)653-0223

“ひろく造形のあらわれに目を向け
その美しさを感じとること
自分の力でそれをつくりだすこと”

(1951年発行 光村図書・中学「造形」巻頭言より)

わたしたちが美術、図画工作の教科書を創刊した
ころの教科書には、今と変わらない願いが書かれ
ています。

いままでも、これからも、教科書を通して子どもたちの
夢を応援したい。

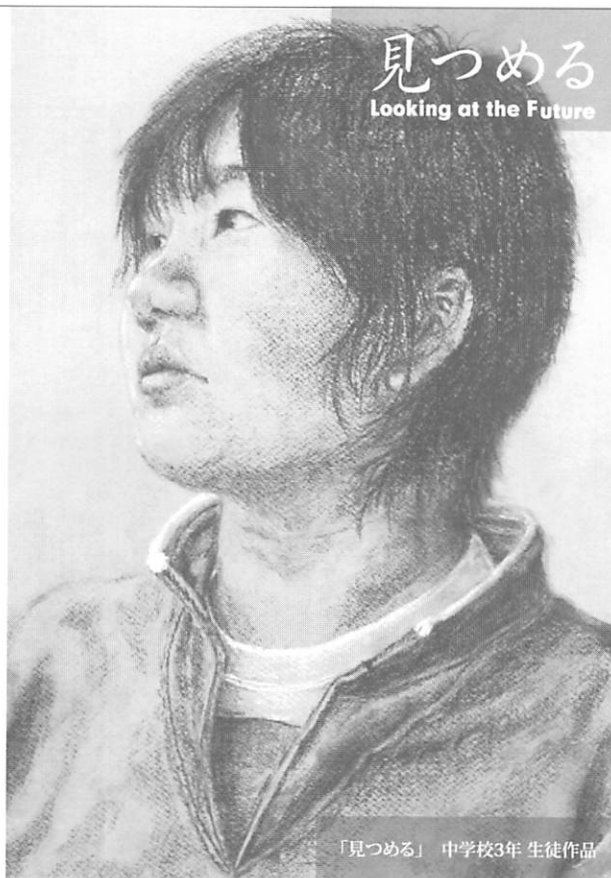
見つめる。その先にあるもの。

www.mitsumura-tosho.co.jp

教科通信「アートスポット」のページにお越しください。
伝統工芸の実践事例や授業で使えるワークシートが取り出せます。

光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話：03-3493-2111 [代表] FAX：03-3493-2177



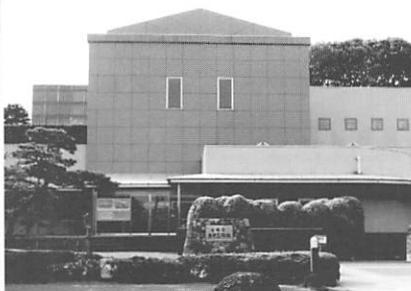
静岡市東海道広重美術館



東海道の宿場町「由比宿」の本陣跡地である、由比本陣公園内に開館した東海道広重美術館は、江戸時代の浮世絵師・歌川広重（1797-1858）の名を冠した、日本で最初の美術館です。

収蔵品は、“広重・東海道三役”と異名をとる《東海道五拾三次》の「保永堂版」、「隸書版」、「行書版」の他、晩年の傑作《名所江戸百景》など、風景版画の揃物の名品を中心に約1,400点を数えます。

常に新しい視点で、浮世絵芸術の素晴らしさを満喫していただけるよう、毎月展示替えを行い、所蔵品を中心にバラエティーに富んだ企画展を開催し、また、ギャラリートークなど、関連事業も随時実施致します。



ご利用案内

【開館時間】 09:00 - 17:00

入館は閉館の30分前まで

【休館日】 毎週月曜日(月・祝)は開館

【入館料】 一般500円

大学生・高校生300円

中学生以下及び静岡市

在住の70歳以上の方は無料

※身体障害者手帳等をご持参の方及び介助者は無料

【お問合せ】

〒421-3103 静岡市清水区由比297-1

TEL:054-375-4454(代)

FAX:054-375-5321

美術・技術家庭科教材教具

みつば教材有限公司

〒416-0945 富士市宮島611の2

TEL 0545-63-8658

FAX 0545-64-3045

E-mail

mitsuba@silk.ocn.ne.jp

ワシンの学校教材用塗料

水性ウレタンニス



- 屋内木部用〈全9色〉
- 用途：木工作品、組立家具、ゆか、手すりなど
- 特長：耐久性と安全性、使いやすさを兼ね備えた1液型水性ウレタン樹脂塗料。肉持ちに優れ、油性並みの強靱な塗膜になる。無臭・速乾性で、シックハウス対応、シックスクール対応、食品衛生法に適合。

オイルフィニッシュ用 水性ウッドオイル



- 屋内未塗装木部用〈全6色〉
- 用途：木工作品、木製家具、木製室内建具など
- 特長：水と植物油から生まれた、オイル特有の仕上がり感を水性塗料で実現。布に染み込ませ、塗り重ねる毎に落ち着いた艶のある塗面になる。低VOC設計で、臭気は少なく、環境負荷を抑え、安全性が一段と向上。

W 和信ペイント株式会社 〒340-0121 埼玉県幸手市上吉羽2100-18
www.washin-paint.co.jp お客様センター：☎0480-48-2725



かろ〜い紙ねんど
ちやん!

ぜんぶで約**200g**入り

商品番号：2231-458	乾燥硬化 芯材使用可 主成分：パルプ・中空樹脂球体 約40 25×120mm 3個入
¥350 (本体¥334)	

紙ねんどを3つに小分けして個別に包装。
さらに大きなチャック付き袋入り！
だから…いつでもフレッシュ！
少しずつ使うときに最適な紙ねんどです。



大きなチャック付袋に3つに小分けして入っています。

商品・カタログのお問合せは下記連絡先までお願いいたします。

図工・美術 教材&備品



新日本造形株式会社

http://www.snz-k.com/

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-42-8

TEL. 03(3389)1221 (代) FAX. 03(3389)5111

大阪支社 〒537-0003 大阪市東成区神路1-10-6

TEL. 06(6974)5111 (代) FAX. 06(6974)2800

風の力の発電メカニズムを体験

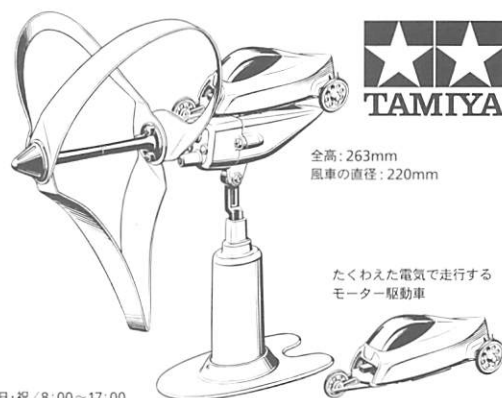
タミヤのループウイング風力発電工作セット

環境にやさしい新エネルギーの1つとして設置が進められている風力発電のメカニズムを体験できるのがタミヤのループウイング風力発電工作セットです。風車は弱い風でも回転しやすいループウイングを採用。風車に連結された発電用モーターを回して電気を起こし、風車の上部にセットしたモーター駆動車にたくわえます。5～10分の蓄電で約1～2分間の走行ができ、発電効果を確認することができます。

●組立キット《好評発売中》3,990円(本体価格3,800円)

株式会社タミヤ 〒422-8610 静岡県駿河区恩田原3-7 www.tamiya.com

製品に関するお問い合わせはタミヤカスタマーサービスまで、TEL 054-283-0003【営業時間】平日/8:00～20:00 土・日・祝/8:00～17:00



全高:263mm
風車の直径:220mm

たくわえた電気で走行する
モーター駆動車



光から学ぶ、LEDライトシリーズ

LEDライト

[3灯丸型]



シャイニングプラネット
スーパーカルモ-S + 風船

透明カプセルのカメさん
スーパーカルモ 50g + カプセル



学納価格:¥330(税込)

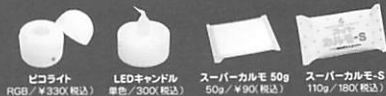
・単4乾電池付きですぐ使えます。
・赤、緑、青の「光の3原色」仕様。
・発熱が少なく、安全・経済的。
・光の授業や園芸などに最適!



従来のタッチライトに変わる
次世代の白色LEDライト、遂に発売!
LEDタッチライト/¥230(税込)
※電池別(3本パック/¥100(税込)もあります)

★ミニサイズのLEDライト★

★使いやすい軽量粘土★



ピコライト
RGB/¥330(税込)

LEDキャンドル
単色/300(税込)

スーパーカルモ 50g
50g/¥90(税込)

スーパーカルモ-S
110g/180(税込)

PADICO 株式会社パジコ 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-2 電話 03(6272)5221(代)

こどもたちが大きく育つことを祈って

信頼できる教材をお届けしております

学校教育総合教材

双葉図書

〒420-0006 静岡県静岡市葵区若松町62
TEL:054-272-1036 FAX:054-253-1344

図工・美術が支える ニッポンの創意工夫力!

さまざまなイベントの開催

昨年夏に開催されたサマーアートキャンプ。小・中学校の多数の先生に参加していただき、たくさんの教材に触れていただきました。同時開催の、公開授業も大好評。

次世代の図工・美術教育をサポート

小学校・中学校において実施される「新しい学習指導要領」*を踏まえ、「教材機能別分類表」の該当教材をはじめとした、充実の21,000アイテムをラインナップ。次世代の図工・美術教育のサポートを始めます。

私たち美術出版サービスセンターは、先生方とともに、子どもたちの発想力、創造力、感性を育み、「創意工夫」することの楽しさがわかる図工・美術教育を、これからも応援していきます。

美術出版サービスセンター

東京都新宿区市谷本村町2-19 〒162-0845
TEL:03-3260-2388 FAX:03-3267-0789
<http://www.bijutsu.co.jp>

教育図書・教材教具・理科機器・事務機・保健用品・特別支援用品

株式会社 ミヤムラ

静岡教育図書

TEL 054-282-8868 FAX 054-284-2438

静岡市駿河区小黒3丁目6-11

女神水性
版画インキ **環境対応**
EPパック

EPパックの特長

- 1 このニューパックは燃えるゴミとして処理できます。
- 2 インキが少なくなったら折って絞り出せます。
- 3 ゴミの減量化及び減容化を目的に開発しました。
- 4 紙パックとは違い6層から出来て、インキの保護性に優れ長期保存が可能です。

女神インキ工業株式会社 TEL03-3803-6161 FAX03-3802-4048

祝

第50回関東甲信越静岡地区造形教育研究大会静岡大会
第37回静岡県教育研究会美術教育研究部夏季静岡大会

感性を刺激し、つくる楽しさと喜びを味わえる
児童・生徒用教材をお届けします!!



一步先を見つめる教材のバイオニア

株式会社 誠文社
SEIBUNSYA CO.,LTD.

ホームページ <http://www.seibunsha.co.jp>



全学品 かるい油土

栄光産業株式会社

TEL 0743-78-3827

FAX 0743-79-0632

〒630-0142 奈良県生駒市北田原町 1674-9

磁石

創る喜び・考える力を・すべての児童に

理科機器・試薬 学校教材

杉山教材店

文具・事務用品・印刷・事務機器・美術教材

静岡市駿河区曲金2丁目7-7

TEL054-285-4002・FAX285-4003

美育文化は、美育文化協会会員の方にお送りしている**美術教育雑誌**です。

美育文化は、授業実践、研究論文、鑑賞資料などを掲載した**美術教育の総合雑誌**です。

美育文化は、きょうの授業にすぐ役立つ実践のヒントと**あすの美術教育を展望する情報**をお届けします。

美育文化は、研究会情報、文献情報など、**美術教育界の最新の動向**をお知らせします。

美育文化協会会員の方には、美育文化バックナンバー及び当協会文献の閲覧・貸出しなどの**特典**があります。

美育文化は、公費でのお申し込みも**可能**です。その際には、必要書類をお送りいたしますので事務局宛ご連絡ください。

美育文化

美育文化はホームページからのお申し込みも可能です

<http://www.biiku.jp/>

BIIKU UNKA

●応募・問い合わせ先

財団法人 **美育文化協会**

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町7-7

TEL 03-3662-5325 FAX 03-3662-5322

E-Mail:biiku@mu2.so-net.ne.jp

MAGAZINE FOR ART EDUCATION

●毎奇数月1日発行●定価850円(送料84円)●年間購読(6冊)3,900円



主催

関東甲信越静岡地区造形教育連合
静岡県教育研究会美術教育研究部
関東甲信越静岡地区造形教育研究大会静岡大会実行委員会

共催

静岡県立美術館

後援

文部科学省
静岡県教育委員会
静岡市
静岡市教育委員会
静岡県校長会
静岡市校長会
静岡県教頭会
静岡市教頭会
静岡県教育事業団体